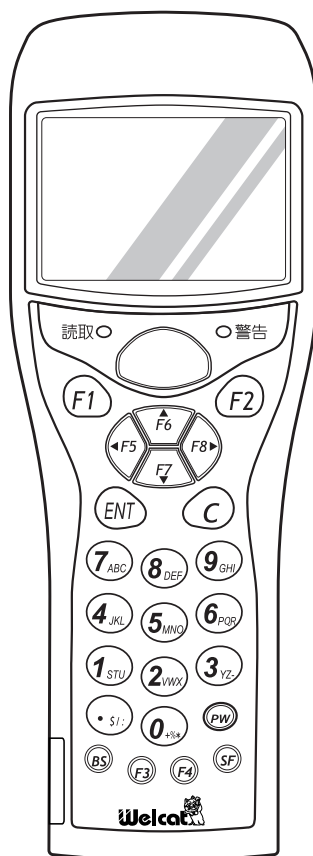


SS無線搭載ICタグハンディリーダーライタ RCT-200-01 ハードウェア/システムメニュー

光通信ユニット **HIF-51**
外付けアンテナユニット **ANU-200-01**



商標について

my-d は、Infineon Technologies 社の商標または登録商標です。

I-CODE は、Philips Semiconductors 社の商標または登録商標です。

Tag-it は、Texas Instruments 社の商標または登録商標です。

FERVIDfamily は、富士通株式会社の商標または登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

正しく安全に お使いいただくために

弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前にこのユーザズマニュアルをよくお読みになり、内容を理解してからお使いください。

表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。



危険

この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定され、かつ危険発生時の警告の緊急性が高い」内容です。



警告

この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

以下の絵表示は、お守りいただく内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。図の中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずしていただく「強制」であることを示します。図の中に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注意の表示を厳守してください。

危険



分解、改造をしないでください

感電、火災、怪我などの事故、または故障を起こす恐れがあります。また保証を受けられなくなることがあります。本製品を分解したり、本機の内部に触れることは、危険です。また、無線機器の分解・改造は、電波法で禁止されており法律で罰せられることがあります。



RCT-200-01 には指定のバッテリーカートリッジを使用してください

指定品以外のものを使用した場合、機器の故障やバッテリーカートリッジの漏液、発熱、発煙、破裂、発火の原因となります。



バッテリーカートリッジの充電は必ず専用充電器を使用してください

バッテリーカートリッジの漏液、発熱、発煙、破裂、発火の原因となります。



光通信ユニットには付属のACアダプタを使用してください

指定品以外のものを使用した場合、機器の発熱、発煙、発火、故障の原因となる場合があります。



バッテリーカートリッジの漏液が目に入ったときは、こすらずにすぐにきれいな水で充分洗った後、直ちに医師の診療を受けてください

放置すると失明など目に障害を与える原因となります。



レーザーを人に向けないでください

レーザー光が目に入ると視力に障害をきたす恐れがあります。



火の中に投入したり、加熱しないでください

発熱、発煙、破裂、発火の原因となります。バッテリーカートリッジではさらに漏液の原因ともなります。

危険



バッテリーカートリッジを
水や海水などにつけたり、
濡らさないでください

バッテリーカートリッジの漏
液、発熱、発煙、破裂、発火
の原因となります。



バッテリーカートリッジの
電極部をショートさせたり、
ハンダ付けしないでく
ださい

バッテリーカートリッジの漏
液、発熱、発煙、破裂、発火
の原因となります。



バッテリーカートリッジの
プラス、マイナスの向きを
逆にして使用、充電しない
でください

バッテリーカートリッジの漏
液、発熱、発煙、破裂、発火
の原因となります。



バッテリーカートリッジを
火やストーブのそば、炎天
下などの高温の場所で使
用、放置、充電しないでく
ださい

バッテリーカートリッジの漏
液、発熱、発煙、破裂、発火
の原因となります。



バッテリーカートリッジの
分解、改造をしないでく
ださい。

バッテリーカートリッジの漏
液、発熱、発煙、破裂、発火
の原因となります。

警告



発熱・発煙・異臭等の異常が発生したときは、電源を切りバッテリーカートリッジを取り外してください
光通信ユニットの場合は、電源を切り AC アダプタをコンセントから抜いてください

そのまま使用すると、発熱、発火の原因となります。バッテリーカートリッジではさらに漏液、破裂の原因ともなります。



バッテリーカートリッジの漏液が肌や服に付着したときは、すぐにきれいな水で充分洗ってください

皮膚に障害を起こす恐れがあります。



持ち運びのときには、ストラップが引っかからないようにしてください

ストラップの取扱いには充分注意してくださいストラップがほかの物に引っかかると、けがや事故の原因となります。



バッテリーカートリッジが漏液、変形・変色したときや、異臭がしたときには使用しないでください

そのまま使用すると、バッテリーカートリッジの発熱、破裂、発火、または漏液の原因となります。また火気に近づけると漏液した電解液に引火する恐れがあります。



バッテリーカートリッジに強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください

バッテリーカートリッジの漏液、発熱、破裂、発火や、機器の故障の原因となります。



RCT-200-01、光通信ユニットの分解、改造をしないでください

けがや感電、火災などの事故または故障の原因となります。内部の点検、調整はお買い上げの販売店にお任せください。



引火、爆発の恐れがある場所では使用しないでください

引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。



警告



高精度な制御や微弱な信号を扱う電子機器の近くでは使用しないでください

電子機器（医療用電子機器、火災報知機、自動ドア、その他の自動制御機器など）が誤動作するなどの影響を与えることがあります。



異物を機器の内部に入れないでください

もし機器の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡くださいそのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。



薬品に近づけないでください

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、保管しないでください感電、火災などの事故または故障の原因となります。



本製品は、その故障が直接人命を脅かしたり人体に影響のある装置（原子力制御、航空宇宙、交通機器、燃焼機器、各種安全装置など）に使用するために開発、意図、許可されているものではありません。

注意



光通信ユニットには指定の通信ケーブルを使用してください

指定品以外のものを使用した場合、機器の故障や通信不良の原因となる場合があります。



コンピュータや蛍光灯、電子レンジなどのノイズを発する機器からはなるべく離して使用してください

ノイズの影響により正常に通信できなくなる場合があります。



高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください
火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください火災などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使用や保管は避けてください感電、火災などの事故または故障の原因となります。



濡らさないでください

雨やシャワーなどの水がかかるところで使用しないでください内部に水が入り感電、火災などの事故または故障の原因となります。



強い衝撃を与えないでください

機器を落とす、投げる、叩くなどしないでください機器の故障の原因となります。



不安定なところに置かないでください

機器が落ちたり倒れたりして、けがや機器の故障の原因となります。



乳幼児の手の届くところに置かないでください

けがなどの原因となります。



光通信ユニットに指定製品以外の物を置かないでください

機器の故障や誤作動の原因となります。



RCT-200-01 は必ず手に取って操作してください

床や机に置いたまま、あるいは光通信ユニットに置いたままの状態で操作をすると機器の故障や誤作動の原因となります。

RFID ステッカについて

弊社のハンディタイプ IC タグ（RF タグ）リーダ／ライタには RFID ステッカを貼付、その他の製品には同梱しております。

このステッカは、平成 16 年 6 月 18 日に総務省から発表された「電波の医用機器等への影響に関する調査結果」の影響を防止するための指針に基づき、植込み型心臓ペースメーカ等装着者への明示を目的として RFID 機器に貼付をお願いしているものです。

本装置は電波を使用した RFID 機器のリーダ／ライタです。そのため使用する用途、場所によっては、植込み型医用機器に影響を与えるおそれがあります。この影響を防止するために、運用に際して以下のことを厳守されることをお願いします。

以下、総務省発表資料からの引用

ハンディ型 RFID 機器

植込み型医用機器の装着者は、ハンディ型 RFID 機器のアンテナ部を植込み型医用機器の装着部位から 22cm 以内に近づけないこと。

※ RFID ステッカは、社団法人日本自動認識システム協会が、植込み型医用機器の装着者に対して、RFID 機器の設置場所等をわかりやすくし、注意を促すために設定したもので RFID 機器に貼付、又は利用者に配布し貼付をお願いしているものです。

ハンディ型 RFID 機器用ステッカ



電波に関する注意

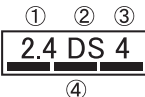
本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また、ご使用の前に「正しく安全にお使い頂くために」(P.ii)を必ずお読みください。

- ・心臓ペースメーカーや医療機器をご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業担当にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときは、弊社営業担当へお問い合わせください。



製品銘版に記載されている  は次の内容を意味しています。

① 2.4	使用周波数帯域	2.4GHz 帯
② DS	変調方式	DS-SS 方式
③ 4	想定干渉距離	40m 以下
④ — — —	周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは、「特小局」帯域を回避可能

本製品は、13.56MHz の電波を利用した通信設備です。そのため使用する用途・場所によっては、混信が発生することがあります。この混信による影響を少なくするために、導入に際しては相互に事前確認されることをお願いします。また、電波天文や医療機器等に影響を与える恐れもあり、このような環境での使用については特に注意してください。



1. 本機は電波法に基づく工事設計の認証を受けた無線設備を内蔵しています。
2. 本機を分解したり、本機の内部に触れることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整は買い上げの販売店にお任せください。
3. 本機は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。



本機は電波法に基づく、誘導式読み書き通信設備（高周波利用設備）の型式指定を受けた無線設備を内蔵しています。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

<お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！>

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- ・ メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。



本来、無線 LAN 端末や無線 LAN カード、無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品をご使用になる際にセキュリティに関する設定を行うことで、その問題が発生する可能性を少なくすることができます。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN 端末や無線 LAN カード、無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社営業担当までお問い合わせ下さい。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

本製品のセキュリティ設定については以下を参照ください。



① SSID の設定 (P.4-20)

② WEP 設定 (P.4-22)

③ MAC アドレスの表示 (P.4-32)

無線 LAN アクセスポイントの MAC アドレスフィルタリング機能を使用する場合に使用。

製品保証について

1. 製品をご購入頂きましたら保証書にお買い上げ日、御社名、御住所などをご記入の上、大切に保管してください。
2. 製品の無償保証期間はご購入日より 1 年、最長で出荷日より 1 年 3 ヶ月となります。ただし、無償保証期間内でも次のような場合は有償となることがありますので、ご了承ください。
 - (1) 保証書のご提示がないとき
 - (2) 保証書の所定事項に未記入の箇所がある場合
 - (3) マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取り扱いによる障害
 - (4) 故意または重大な過失による障害
 - (5) 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
 - (6) 許可無く、改造または他機器の接続、取り付けを行なったことによる障害
 - (7) 災害、地震、水害等の天災地変による障害
 - (8) お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
 - (9) 使用上避けられない消耗による障害・部品交換（消耗品交換）
3. 製品の内容は、修正バージョンアップなどにより、予告なく変更することがあります。
4. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てにわたる責任を負いかねますので、ご了承ください。



この製品のキーシート（押しボタン）およびバイブレータ（振動モーター）、バッテリーカートリッジは消耗品として扱います。キーシートおよびバイブレータは、お客様の使用環境と使用頻度によっては弊社の保証期間より短い期間での交換が必要になります。（キーシートの標準耐用回数は 50 万回です。ただし粉塵の多い環境や油が付着しやすい環境で使用していると劣化が早まります。バイブレータは寿命が近くなると振動が弱くなる、振動しなくなる等の症状が現れます。）

寿命となった場合は、部品の交換（有償）となりますのであらかじめご承知ください。バッテリーカートリッジについては、「2-3 バッテリーカートリッジ（HBC-51）について」をご覧ください。

目次

製品保証について..... xii

目次..... xiii

はじめに..... xvii

同梱品..... xviii

表記上の注意..... xix

本書の構成..... xxi

第 1 章 クイックガイド編

1-1 各部の名称..... 1-2

1-2 使用前の準備..... 1-4

1-2-1 機器の接続..... 1-5

1-2-2 周辺ソフトウェアについて 1-6

1-3 無線通信について..... 1-7

1-4 データ通信の準備..... 1-9

1-5 データ通信方法..... 1-11

第 2 章 ハードウェア編

2-1 RCT-200-01の主な機能..... 2-2

2-2 製品仕様..... 2-4

2-2-1 製品仕様..... 2-4

2-2-2 RS-232C インターフェース 2-6

2-2-3 バーコードの読取仕様 2-6

2-2-4 IC タグアクセス仕様 2-10

2-3 バッテリーカートリッジ（HBC-51）について 2-11

2-3-1 バッテリーカートリッジの充電 2-11

2-3-2 取り外し方..... 2-12

2-3-3 取り付け方..... 2-12

2-3-4 バッテリーカートリッジの消耗と交換 2-13

2-3-5 電極の清掃に関する注意 2-13

2-4 メモリバックアップ期間（バックアップ用電池について） 2-14

2-4-1 バックアップ用電池の充電 2-15

2-4-2 ドライブ S のデータについて 2-16

2-5 レジューム機能について 2-17

2-6 画面出力キャラクタ 2-18

第3章 ソフトウェア編

3-1 RCT-200-01に搭載されているソフトウェアについて.....	3-2
3-1-1 データの格納場所.....	3-3
3-1-2 システムメニューについて	3-4

第4章 設定編

4-1 はじめに.....	4-2
4-2 システムメニュー.....	4-3
4-2-1 システムメニューの操作	4-3
4-3 システムメニューの起動.....	4-5
4-3-1 起動方法.....	4-5
4-3-2 DHCP リクエストの実行.....	4-5
4-3-3 起動直後の無線動作状態	4-5
4-4 システムメニュー一覧.....	4-6
4-5 システム設定メニュー.....	4-7
4-5-1 自動的に起動するプログラムの設定	4-7
4-5-2 シリアル通信の設定.....	4-8
4-5-3 時計の設定.....	4-9
4-5-4 画面コントラストの調節	4-10
4-5-5 ブザーおよびバイブレータの設定	4-11
4-5-6 スキャナの設定.....	4-13
4-5-7 レジュームモードの設定	4-16
4-5-8 RFID の設定.....	4-17
4-6 ネットワークメニュー.....	4-19
4-6-1 無線通信の設定.....	4-19
4-6-2 TCP/IP の設定.....	4-25
4-6-3 DHCP の設定.....	4-26
4-6-4 FTP の設定.....	4-28
4-6-5 DNS の設定.....	4-28
4-6-6 SNMP の設定.....	4-29
4-6-7 MAC アドレスの表示.....	4-32
4-7 端末ID設定メニュー.....	4-33
4-8 ファイルメニュー.....	4-34
4-8-1 アプリケーションの起動	4-34
4-8-2 ファイルの送信.....	4-35
4-8-3 ファイルの受信.....	4-37
4-8-4 ファイルの削除.....	4-40
4-8-5 ファイルのテスト.....	4-41
4-8-6 ファイル情報.....	4-42
4-8-7 ドライブ情報.....	4-43
4-8-8 フォントの変更.....	4-44

4-9 確認メニュー	4-45
4-9-1 電池電圧	4-45
4-9-2 OS バージョン	4-46
4-9-3 時計	4-46
4-10 テストメニュー	4-47
4-10-1 無線のテスト	4-47
4-10-2 シリアル通信のテスト	4-51
4-10-3 バーコード読取のテスト	4-52
4-10-4 画面表示のテスト	4-52
4-10-5 キー入力のテスト	4-53
4-10-6 IC タグの読取りテスト	4-54
4-11 その他の機能	4-55
4-11-1 低電圧警告	4-55
4-11-2 オートパワーオフ	4-55
4-12 RCT-200-01 の初期化	4-56
4-13 「Mini-Welfer for Windows」の通信設定	4-58
4-13-1 「Mini-Welfer for Windows」の基本的な設定	4-58
4-13-2 RCT-200-01 の通信設定	4-59
4-13-3 RCT-200-01 から受信（アップロード）した ファイルの保存場所	4-59

第 5 章 FAQ 編

5-1 FAQ（よくある質問と回答）	5-2
Q：電源が入らない	5-2
Q：画面に何も表示されない	5-2
Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった	5-2
Q：充電できない	5-2
Q：システムメニューが起動しない	5-3
Q：電源を ON にしたときに起動するアプリケーションを変更したい	5-3
Q：別のアプリケーションを起動するには	5-3
Q：バーコードが上手く読取れない	5-3
Q：ドライブの空き容量を確認するには	5-3
Q：無線でデータ通信ができない	5-4
Q：IrDA または RS-232C でデータ通信ができない	5-5
Q：ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された	5-5
Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトしました」と表示された	5-6
Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された	5-6
Q：端末の IP アドレス等の設定をコンピュータから一括設定したい	5-6
Q：アプリケーションの起動やファイルの送受信ができない	5-6
Q：ファイルが壊れているようなのですが	5-7
Q：「アプリケーションエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった	5-7
Q：「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった	5-7
Q：IC タグが読み取れない	5-7

第 6 章 光通信ユニット（HIF-51）編

6-1 はじめに.....	6-2
6-1-1 各部の名称.....	6-3
6-2 接続.....	6-5
6-2-1 ホストコンピュータとの接続.....	6-5
6-3 デイジーチェーン接続.....	6-6
6-3-1 構成例（DIP スイッチの設定）.....	6-7
6-4 インターフェース.....	6-9
6-4-1 RS-232C インターフェース.....	6-9
6-4-2 RS-485 インターフェース.....	6-10
6-4-3 インターフェース仕様.....	6-11

第 7 章 外付けアンテナユニット（ANU-200-01）編

7-1 はじめに.....	7-2
7-1-1 各部の名称と外形寸法.....	7-2
7-2 取り付け方法.....	7-3
7-3 ICカード/ICタグの読ませ方.....	7-4
7-4 仕様.....	7-5

付録 A システムメニュー出荷時設定

システムメニュー出荷時設定値一覧.....	付録A-2
-----------------------	-------

付録 B サンプルバーコード

サンプルバーコード.....	付録B-2
----------------	-------

索引

はじめに

この度は SS 無線搭載 IC タグハンディリーダーライタ RCT-200-01 をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

このユーザーズマニュアルは RCT-200-01 のハードウェアとシステムプログラムについて説明するものです。

お客様の業務の効率化に RCT-200-01 がお役に立てれば幸いに存じます。

●RCT-200-01 のマニュアル構成

RCT-200-01 ハードウェア／システムメニュー (本書)	RCT-200-01 が持つ基本的な機能や、操作方法についてのマニュアルです。通信をする上で必要な設定や操作、RCT-200-01 の基本的な設定を行なうシステムメニューについて説明します。
---------------------------------------	---

「WebGlider II」をお使いになる場合は、当該製品パッケージに付属のオンラインマニュアルをご覧ください。

同梱品

■RCT-200-01 本体..... 1

■ストラップ 1

■ユーザーズマニュアル CD..... 1

■RFID ステッカペラ..... 1

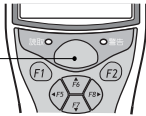
■保証書..... 1

別売り

- バッテリーカートリッジ (HBC-51)
- アクセスポイント (弊社推奨品)
- 充電器 (1 個口 :HQC-51、4 個口 :HQC-54)
- アプリケーション開発キット (HAP-SDK-11)
- RCT-200-01 用ライブラリ (HAP-LIB-53)
- Web 対応ミドルウェアパッケージ「WebGlider II」 (WBG-800-02)
- PC 接続用ケーブル (HOP-C031)
- 弊社推奨プリンタ接続用ケーブル (HOP-C033)
- 光通信ユニット (HIF-51)
- HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A)
- HIF-51 デイジーチェーン接続用ケーブル (STP-C001A)
- ファイル転送ミドルウェアパッケージ Welfer-X
- 外付けアンテナユニット (ANU-200-01)

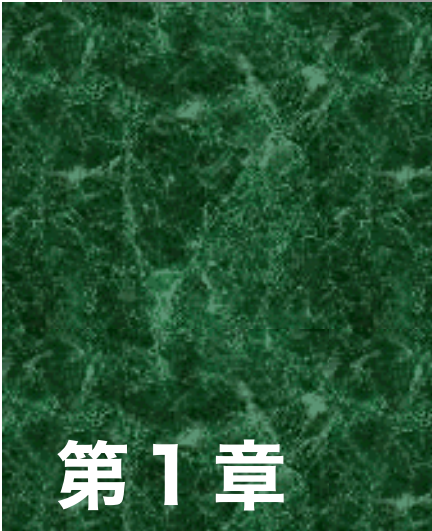
表記上の注意

	参照事項を表わします。
	注意事項を表わします。
「RCT-200-01」 「端末」	ハンディリーダライト本体を表わします。
「アクセスポイント」	RCT-200-01 と無線通信を行い、TCP/IP でイーサネット LAN 上の PC とデータの送受信を行う通信インターフェース装置です。 IEEE802.11b 規格に準拠している弊社推奨品をご使用ください。
「WLAN」	無線 LAN のことを表します。
「光通信ユニット (HIF-51)」	RCT-200-01 と PC のシリアル通信インターフェースです。 別途ご購入ください。
「システムプログラム」	RCT-200-01 に搭載されている、OS を指します。
「システムメニュー」	システムプログラムの機能の一部を指します。
「WebGlider II」	Web 対応統合ミドルウェアパッケージ「WebGlider II」(WBG-800-02)を指します。必要に応じて別途購入してください。
「RCT-200 用ブラウザ」	RCT-200-01 に標準搭載されている専用ブラウザを指します。ブラウザは「WebGlider II」を使用して Web 型システムを構築する際に、ハンディのアプリケーションとして動作します。
「ネットワーク 管理ツール」	「WebGlider II」に付属するネットワークシステムの運用・管理をサポートするソフトウェアです。ネットワーク状況の監視や、ファイル転送サーバー、端末への IP アドレスの自動割り当てなどの機能を備えています。 「WebGlider II」とは機能的に独立していますので、どちらか一方のみをインストールしてご使用頂くことも可能です。
「Welfer-X」	シリアル通信用のファイル転送ユーティリティ「Mini-Welfer for Windows」を含むファイル転送ミドルウェアパッケージ「Welfer-X」を指します。
「ドライブ S」	データファイル、パラメータファイルなどを格納するための領域を指します。
「ドライブ F」	アプリケーション、データベースマスターファイルなどを格納するための領域を指します。

「バッテリー カートリッジ」	「HBC-51」を表わします。別途ご購入ください。
「読取キー」	バーコードを読取るときに押します。 
「テンキー」	①～⑨、⊙のキーを表わします。
「ダイジーチェーン」	光通信ユニット (HIF-51) 同士を、専用ケーブルを使用して複数台 接続することを表わします。

本書の構成

第 1 章 クイックガイド編 RCT-200-01 本体の基本的な取り扱いについて説明します。	第 1 章
第 2 章 ハードウェア編 RCT-200-01 の仕様や操作方法について説明します。	第 2 章
第 3 章 ソフトウェア編 RCT-200-01 に搭載されているソフトウェアについての概要を説明します。	第 3 章
第 4 章 設定編 システムメニューの設定や操作方法を説明します。	第 4 章
第 5 章 FAQ 編 よくあるご質問と対処方法を説明します。	第 5 章
第 6 章 光通信ユニット（HIF-51）編 光通信ユニット（HIF-51）について説明します。	第 6 章
第 7 章 外付けアンテナユニット（ANU-200-01）編 外付けアンテナユニット（ANU-200-01）について説明します。	第 7 章
付録 A システムメニュー出荷時設定	付録 A
付録 B サンプルバーコード	付録 B

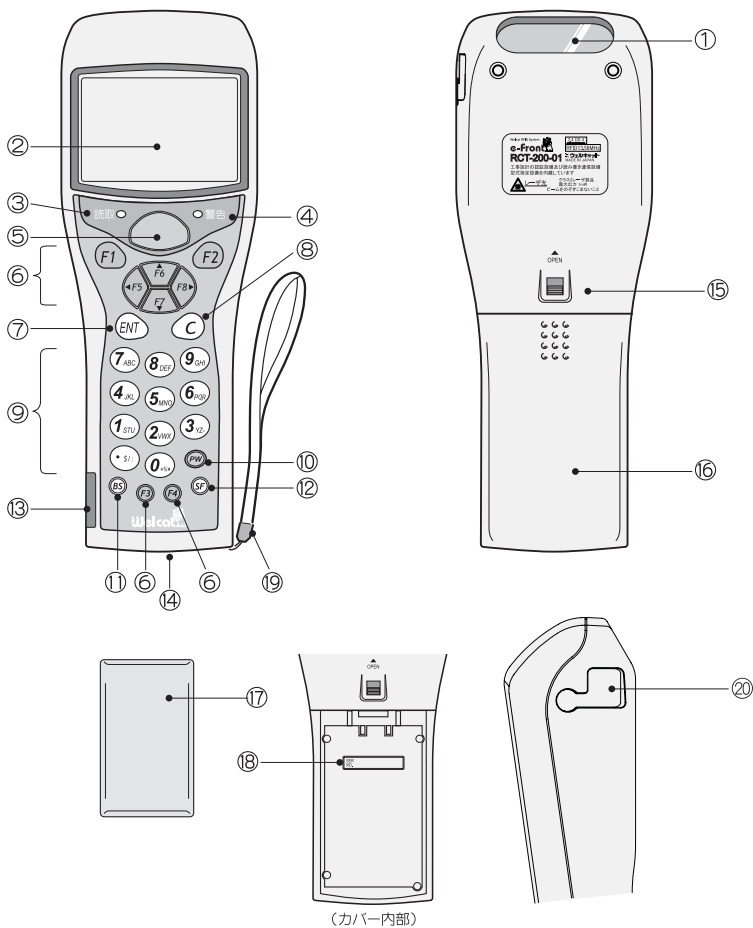
A large rectangular area with a dark green, marbled texture, resembling stone or aged paper. It is positioned in the upper right quadrant of the page.

第1章

クイックガイド編

A thin horizontal bar with the same dark green, marbled texture as the larger block above, spanning the width of the page below the chapter title.

1-1 各部の名称



① 読取口

バーコードやICタグを読み取るための開口部です。

② LCD(液晶表示器)

データや文字を表示します。

- ③ 読取 LED
バーコードを正しく読取ると緑色に点灯します。
- ④ 警告 LED
無線通信時にアクセスポイントからの電波の受信状態を表わします。(P.2-5)
- ⑤ 読取キー
バーコードを読取るとき押します。
- ⑥ ファンクションキー (F1 ~ F8)
機能の切り換えやカーソル操作をします。(P.4-3)
- ⑦  キー (Enter キー)
入力したデータや操作を確定、実行するときに押します。
- ⑧  キー (キャンセルキー)
入力の取消をしたり、画面を元に戻したりします。
- ⑨ テンキー (0 ~ 9、)
数字、小数点を入力します。
- ⑩  キー (電源スイッチ)
- ⑪  キー (バックスペースキー)
入力した 1 つ前の字を消します。
- ⑫  キー (シフトキー)
他のキーと一緒に押すことで、特殊な機能を働かせます。
- ⑬ IrDA インターフェース
光通信ユニット (HIF-51) や専用プリンタと IrDA で通信します。
- ⑭ RS-232C インターフェース
別売りのケーブルで、専用プリンタまたはコンピュータと接続します。
- ⑮ バッテリーカートリッジロックレバー (P.2-12)
赤色が表示されるとロック状態です。
- ⑯ バッテリーカバー (P.2-12)
必ずバッテリーカバーを付けた状態でご使用ください。
- ⑰ バッテリーカートリッジ (別売り) (P.2-11)
ご購入直後のバッテリーカートリッジは、必ず充電してからご使用ください。
- ⑱ シリアル番号
バッテリーカートリッジを収納する本体内部には、シリアル番号が記載されています。
- ⑲ ハンドストラップ
- ⑳ 外付けアンテナユニット端子
別売の外付けアンテナユニット (ANU-200-01) の同軸ケーブルを接続します。

1-2 使用前の準備

RCT-200-01 を使用する前に、次の準備と確認をしてください。

●バッテリーカートリッジHBC-51ー（別売り）

RCT-200-01 を使用するために必要です。別途ご購入の上、RCT-200-01 に正しく装着してください。(P.2-12)

●読取口は汚れていませんか？

読取口が汚れていると、バーコードを正しく読取ることができません。汚れていた場合は、柔らかい布などで軽く拭いてください。

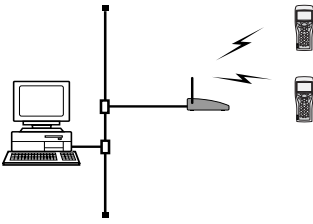
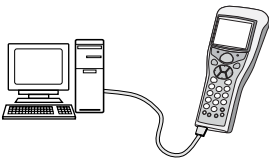


RCT-200-01 は、必ず手に取ってご使用ください。床の上などに置いたまま使用すると、故障の原因になります。
光通信ユニット（HIF-51）に置いたまま使用しないでください。光通信ユニットが倒れたり、RCT-200-01 が落下したり、故障の原因になります。

1-2-1 機器の接続

RCT-200-01 では、入力したデータをホストコンピュータに送信したり、ホストコンピュータからデータを受信したりすることができます。

ホストコンピュータとの接続には、次の 3 つの方法があります。使用環境に応じて必要な準備を整えてください。

アクセスポイントと無線通信	P.4-19
アクセスポイントをイーサネット LAN に接続して無線通信。 ■別途購入 アクセスポイント(弊社推奨品) イーサネットケーブル、HUB 無線ネットワークに関する詳細は、アクセスポイントのマニュアル、本書とをあわせてご覧ください。	
ホストコンピュータの RS-232C コネクタと直接接続	P.4-8
ホストコンピュータと RCT-200-01 を PC 接続用ケーブル(HOP-C031)で接続して RS-232C 通信。 ■別途購入 PC 接続用ケーブル(HOP-C031)	
ホストコンピュータを光通信ユニット (HIF-51) に接続して IrDA 通信を使用	P.4-8
ホストコンピュータと光通信ユニット(HIF-51)を HIF-51 PC 接続用ケーブル(WRS-AXC003A)で接続。光通信ユニットと IrDA 通信。 ■別途購入 光通信ユニット(HIF-51) HIF-51 PC 接続用ケーブル(WRS-AXC003A)	



光通信ユニット (HIF-51) をダイジーチェーン接続 (P.6-6) で使用する場合、別途ダイジーチェーン接続用ケーブル (STP-C001A) をご購入ください。

1-2-2 周辺ソフトウェアについて

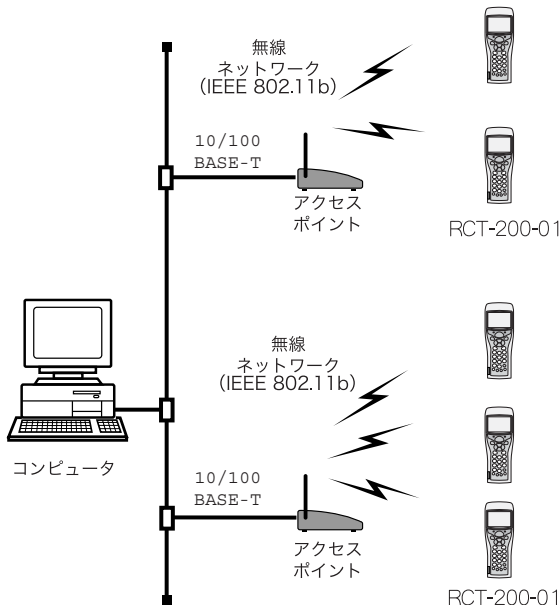
ホストコンピュータとのデータ通信や、アプリケーションの作成、Web 型の無線システムを構築する場合は、次のソフトウェアが別途必要です。

プログラム	準備・用途	参照
アプリケーション 開発キット (HAP-SDK-11)	RCT-200-01 専用ライブラリと共に使用し、RCT-200-01 のアプリケーションを作成する場合に必要です。C 言語で書かれたソースコードをコンパイル・リンクし RCT-200-01 上で実行可能なアプリケーションを作成します。	詳細は、ソフトウェア付属のマニュアルをご覧ください。
RCT-200-01 専用 ライブラリ (HAP-LIB-53)	開発キットと共に使用し、RCT-200-01 のアプリケーションを作成する場合に必要です。RCT-200-01 を制御する上で必要な API が多数含まれています。	詳細は、ソフトウェア付属のマニュアルをご覧ください。
WebGlider II	RCT-200 用ブラウザを使って Web 型の無線システムを構築する場合に必要です。また、RCT-200-01 の各種設定を自動化する DHCP サーバや FTP サーバ、稼動モニタ等も「WebGlider II」パッケージに含まれています。必要に応じて別途ご購入ください。 RCT-200 用ブラウザを使ってデータ通信を行なう前に、コンピュータ側に「WebGlider II」をインストールして、通信環境のセットアップを行なってください。	詳細は、ソフトウェア付属のオンラインマニュアルをご覧ください。
Welfer-X	シリアル通信時のホストコンピュータとのデータ送受信に必要です。別途ご購入ください。 データ通信を行なう前に、ホストコンピュータ側に、「Welfer-X」をインストールしてください。	P.4-58 または、ソフトウェア付属のマニュアルをご覧ください。

1-3 無線通信について

■ RCT-200 シリーズの無線機能

RCT-200 シリーズは、無線伝送方式によるハンディターミナル・ネットワークシステムです。端末は小型軽量で携帯性に優れており、コンピュータから離れた場所で移動しながらバーコードや IC タグのデータを収集する作業に適しています。RCT-200-01 の無線方式は、WLAN 標準規格である IEEE802.11b に準拠し、最大 11Mbps の無線通信が可能になります。バーコードや IC タグの読み取り時のデータエントリやファイルの送受信をリアルタイムに無線ネットワークで行なうことができます。



■無線通信の方式

WLAN として一般的に使用されている IEEE802.11b 規格に準拠しております。ご使用になるアクセスポイントが IEEE802.11b 規格に準拠したものであれば、ほとんどの場合無線通信が行えます。



本製品はインフラストラクチャモードのみ対応しております。アドホックモードには対応しておりません。

■アクセスポイントの役割

アクセスポイントは端末 (RCT-200-01) への無線サービスエリアの提供と、有線イーサネット LAN とのパケット中継を行なう無線ネットワーク対応ローカルブリッジとして機能します。端末は、それぞれが IP アドレスを持っており、アクセスポイントを介してダイレクトにイーサネット LAN に接続されたコンピュータと TCP/IP 通信を行ないます。



アクセスポイントは弊社推奨品をご使用ください。推奨品のメーカー、型番につきましては、弊社営業担当までお問い合わせください。

1-4 データ通信の準備

RCT-200-01 を使ってコンピュータとのデータ通信を行なうためには、次の設定を行なってください。

■ 無線通信

	項目	解説	参照ページ
①	SSID の設定	通信相手となるアクセスポイントと SSID (または ESSID) を合わせます。AP 検索機能を使用して接続可能なアクセスポイントの SSID を取得し、SSID を設定する機能もあります。	P.4-20
②	セキュリティの設定	通信相手となるアクセスポイントとセキュリティ設定を合わせます。	P.4-21
③	TCP/IP の設定	イーサネット LAN 上のコンピュータと TCP/IP 通信が行なえるようにアドレスを設定します。	P.4-25
④	FTP の設定	無線でファイル転送を行なう場合に設定します。 「WebGlider II」の FTP サーバおよび一般的な FTP サーバに対応します。	P.4-28
⑤	DHCP の設定	DHCP クライアント機能を使用する場合に設定します。 「WebGlider II」の DHCP サーバに対応します。	P.4-26
⑥	DNS の設定	DNS を使って名前の解決を行なう場合に設定します。 DNS を使うかどうかはアプリケーションに依存します。	P.4-28

は、「ネットワーク管理ツール」を使用した独自 DHCP クライアント機能(P.4-26)を使うことによって、コンピュータ側で一括設定することが可能です。「ネットワーク管理ツール」を使用した独自 DHCP クライアント機能をご使用になる場合は、別途「WebGlider II」が必要です。



「①SSID の設定」、「②セキュリティの設定」項目を「ネットワーク管理ツール」を使用した独自 DHCP クライアント機能を使用して設定することはセキュリティ上の弱点となるため、なるべく使用しないでください。

第1章 クイックガイド編

設定が終了したら、まず無線テスト(P.4-47)を行なってアクセスポイントと通信が行なえるか確認してください。その後 ping テスト(P.4-49)を実行してコンピュータとネットワーク通信が行なえるかどうかを確認してください。



RCT-200-01 の無線機能については、「1-3 無線通信について」(P.1-7)をご覧ください。

■有線通信

	項目	解説	参照ページ
①	端末 ID の設定	各 RCT-200-01 に識別用の ID 番号を設定します。 「Welfer-X」や「WebGlider II」ではこの ID を使って端末を識別します。	P.4-33
②	シリアル通信の設定	シリアル通信条件や使用する通信ポート (IrDA／RS-232C) を設定します。通信条件は「Welfer-X」と端末で同じ設定に併せます。	P.4-8

は、「ネットワーク管理ツール」を使用した独自 DHCP クライアント機能(P.4-26)を使うことによって、コンピュータ側で一括設定することが可能です。「ネットワーク管理ツール」を使用した独自 DHCP クライアント機能をご使用になる場合は、別途「WebGlider II」が必要です。

1-5 データ通信方法

機器を準備したら、以下の手順でデータ通信を行ないます。

■無線通信の場合

無線通信を行なう場合の手順は次のとおりです。



「ネットワーク管理ツール」を使用した独自 DHCP クライアント機能 (P.4-26) をご使用になる場合は、別途「WebGlider II」が必要です。設定が終了したら、まず無線テストを行なってアクセスポイントと通信ができるか確認してください。その後 ping テストを実行してコンピュータとネットワーク通信ができるどうかを確認してください。

操作手順

- ① アクセスポイントをイーサネット LAN に接続して、ホストコンピュータと通信できるよう設定を行なっておきます。



アクセスポイントの設置、イーサネット LAN への接続および通信の設定に関する詳細については、アクセスポイント付属のマニュアルを参照してください。

- ② アクセスポイントの電源を ON にします。
- ③ RCT-200-01 の電源を ON にして、システムメニューから無線通信および TCP/IP の設定を行ないます。(P.4-19)
- ④ FTP の設定を行ないファイルを送受信します。
 - RCT-200-01 からホストコンピュータにファイルを送信する場合>P.4-35
 - RCT-200-01 でホストコンピュータからファイルを受信する場合>P.4-37

■有線通信の場合

RS-232C 通信や IrDA 通信を行なう場合の手順は次のとおりです。

操作手順

- ① 「Welfer-X」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ② 光通信ユニット (HIF-51) を HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) でホストコンピュータと接続した後、光通信ユニットの電源を ON にします。
RCT-200-01 とホストコンピュータを直接接続する場合は、PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続します。
- ③ 「Mini-Welfer for Windows」を起動して、ファイルの送受信に必要な設定を行ないます。
(P.4-58)
- ④ RCT-200-01 の電源を ON にして、システムメニューから端末 ID (P.4-33) およびシリアル通信の設定 (P.4-8) を行ないます。



光通信ユニット (HIF-51) をデジチェーン接続で使用している場合、ホストコンピュータから、1 つのファイルを複数の端末に一度に送信 (同報送信) することが可能です。(P.6-6)
また、デジチェーン接続されている複数の光通信ユニットでは、どのユニットからもホストコンピュータへデータを送信することが可能です。

- ⑤ ファイルを送受信します。
 - ・RCT-200-01 からホストコンピュータにファイルを送信する場合>P.4-35
 - ・RCT-200-01 でホストコンピュータからファイルを受信する場合>P.4-37

第2章

ハードウェア編

2-1 RCT-200-01の主な機能

1. コードレスで通信システムを実現

無線伝送方式により、端末はサービスエリア内なら自由に移動することができます。また将来システムを拡張する場合にも、容易に端末を増設できます。

2. TCP/IP プロトコルに対応

無線通信部は TCP/IP プロトコルに対応しており、端末は有線 LAN 上のコンピュータと透過的に通信を行なうことができます。

3. 「第二世代小電力データ通信システム（ARID STD-T66）」、「小電力データ通信システム（RCR-STD-33A）」準拠規格

総務省告示に従った技術適合試験合格品ですので、導入にあたって無線局の申請、免許の取得等の手続きは一切不要です。

通信が可能な距離は周囲の環境によって異なりますが、目安として屋内約 75m、屋外約 200m まで可能です。



本製品はインフラストラクチャモードのみ対応しております。アドホックモードには対応しておりません。

4. 高速なデータ伝送

IEEE802.11b 準拠により規格上最大 11Mbps の無線通信が可能になります。

5. IrDA インターフェースを装備

IrDA SIR Ver1.2 準拠。115kbps の高速ファイル転送を実現しました。
専用プリンタと IrDA で通信することもできます。

6. バイブレータ機能を標準搭載

騒音の大きな作業現場でも、確実な読取り確認が可能です。

7. 大容量バッテリーによる長時間駆動

別売りのバッテリーカートリッジ (HBC-51) を使用することにより、連続約 10 時間の使用が可能です。

このときのアクセスポイント、RCT-200-01 の設定条件は「2-2-1 製品仕様」(P.2-4) を参照してください。

8. 小型・軽量

本体が、小型かつ軽量のため使用環境を選ばず、手軽に持ち運ぶことができます。

9. ISO15693 準拠した IC タグのリード、ライトができます。

10. 外付けアンテナユニットを接続することで、IC タグへのアクセス距離をさらに伸ばすことができます。

2-2 製品仕様

2-2-1 製品仕様

RFID	無線規格	誘導式読み書き通信設備 ARIB STD-T82
	無線周波数	13.56MHz
	通信距離	0～5cm(タグ性能により前後します。)
	読取り方向	バーコードと同方向
スキャナ部	対応タグ	my-d、Tag-it HF-I、I・CODE 1、I・CODE SLI、FERVIDfamily
	読取コード	NW-7、CODE39、JAN-13/8、UPC-A/E、EAN13/8、インダストリアル 2of5、ITF、CODE93、CODE128、EAN128
	読取桁数	最大 72 桁(データ桁)
	読取幅	最大 350mm
	光源	赤色光半導体レーザー
	MPD	25
	分解能	0.127mm
メモリ	FROM	4Mバイト(内 3.2MB がファイル領域)
	SRAM	4M バイト(内 2MB がファイル領域、1MB がアプリケーション用ワーク領域)
表示 LED	読取正読／エラー	緑／赤／橙
	警告	赤(圏外時に点灯)
LCD 表示部	STN 液晶フルドットマトリックス(グレーモード)	
	表示数 128×64ドット	漢字 10 桁×5 行(12ドットモード) / 8 桁×4 行(16ドットモード)
		ANK 20 桁×5 行(12ドットモード) / 16 桁×4 行(16ドットモード)
	表示面積	43(W)×31(H)mm
	表示文字	JIS 第一・第二水準漢字、ANK、記号、外字
	コントラスト調整	8 段階
	バックライト	あり(LED)
ブザー	読取り時、各種エラー時に鳴動	
バイブレータ	読取り時、各種エラー時に振動(ブザーとの連動を選択可能)	
寸法	56.6(W)×160(D)×39.0(H)mm/グリップ部:45(W)×26(H)mm	
重量	約 215g(バッテリーカートリッジを含む)	
電源	メインバッテリー	リチウムイオン電池
	バックアップバッテリー	リチウム二次電池(メンテナンスフリー)
環境	使用温度	-5～45℃
	使用湿度	20～80%RH(ただし結露無きこと)
	保存温度	-10～60℃
	保存湿度	10～90%RH(ただし結露無きこと)
	防滴	JSI型
	耐落下強度	120cm(コンクリート)
	照度条件	人工光 4,800 lx typ. (ただしナトリウムランプは除く) 太陽光 107,000 lx typ.

連続使用時間	約 10 時間	
	設定条件 ●アクセスポイント設定 ピーコン周期:100ms、DTIM2 ●RCT-200-01 の条件 省電力タイムアウト:すぐ、読取周期:20 秒に 1 回 IC タグ読取り 読取り後約 40 バイトの無線データ送信	
時計機能	年(4桁)月日時分／閏年補正あり	
外部インターフェース	IrDA(IrDA SIR 1.2 Low Power Option 規格準拠)／RS-232C	
無線部	適合国際規格	IEEE802.11b
	適合国内規格	ARIB STD-T66、STD-33A
	通信方式	スペクトラム拡散方式(直接拡散方式)
	無線周波数	2.4GHz 帯
	空中線電力	10mW/MHz 以下
	通信速度	11/5.5/2/1 Mbps(自動切替/固定)
	チャンネル数	14
	セキュリティ	SSID、WEP(40/128bit)
	アンテナ	本体に内蔵
管理機能	SNMP エージェント(SNMPv1)	
サポート MIB	MIB-II(RFC1213)※一部未対応 Welcat Enterprise MIB	

■ 無線通信時の警告 LED の表示

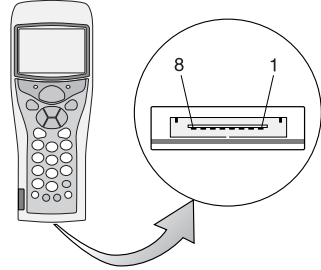
無線通信時の警告 LED の状態と意味は次のとおりです。

LED の状態	意味
消灯	アクセスポイントとの通信が可能。もしくは通信を行っていない。
点滅/点灯	アクセスポイントと通信をしようとしているが同期することができない。同期が外れて約 3 秒間は点滅し、その後点灯になります。 (再度アクセスポイントと同期することで消灯します。)

2-2-2 RS-232C インターフェース

■信号名称およびコネクタピン配列

ピン番号	端子名	方向	説明
2	GND	-	シグナルグラウンド
3	TxD	出力	送信データ
4	RTS	出力	送信要求
5	RxD	入力	受信データ
6	CTS	入力	送信可
1、7、8	-	-	予約



使用コネクタ：3260-8S2 ヒロセ製
端子信号レベルは、JISX5101 相当

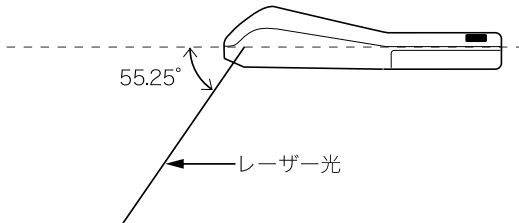


上記の予約のピンは、システムによってあらかじめ予約されています。独自のアプリケーション、ケーブル等による使用または接続はしないでください。ホストコンピュータと RCT-200-01 を直接接続するには、PC 接続用ケーブル（HOP-C031）を別途ご購入ください。

2-2-3 バーコードの読取仕様

■レーザー光の照射角度

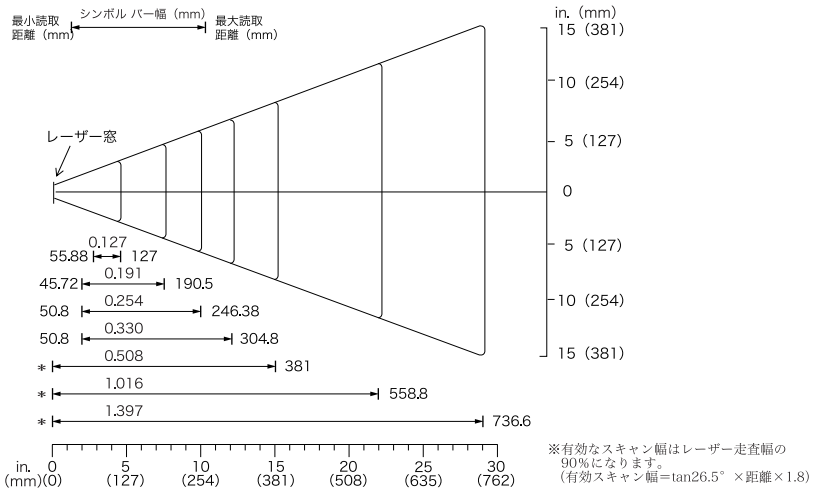
RCT-200-01 のレーザー光の照射角度は 55.25°です。



■読取深度

バーコードの読取り可能範囲のことを読取深度といいます。RCT-200-01 の読取深度は、次の図のとおりです。

●スキャン範囲及び分解能深度



●読取距離範囲

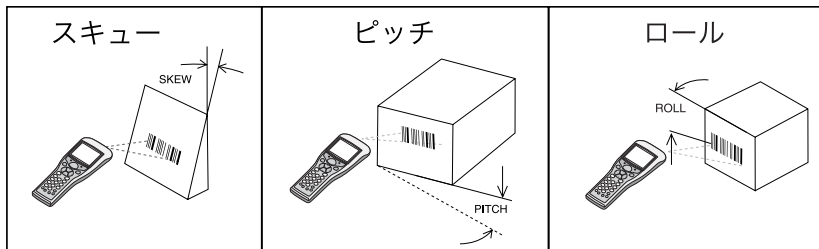
シンボル種類	(mm)	内容	太細比	最小読取距離 (mm)	最大読取距離 (mm)
CODE 39	0.127	ABCDEFGH	2.5:1	55.88	127
CODE 39	0.191	ABCDEF	2.5:1	45.72	190.5
CODE 39	0.254	FGH	2.2:1	50.8	246.38
UPC100%	0.330	012345678905	-	50.8	304.8
CODE 39	0.508	123	2.2:1	*	381
CODE 39	1.016	AB	2.2:1	*	558.8
CODE 39	1.397	CD	2.2:1	*	736.6

ー表補足ー

- ・*はバーコードの長さにより距離が変わります。
- ・読取距離は水平設置した状態のシャーシ底面より4.3mmの高さでのレーザー出射口端面からバーコードまでの水平距離です。
- ・バーコードは、Photographic quality symbols、白の反射率>90%、MRD90% (650nm)
- ・4回のトリガーで3回以上の読取りができること。
- ・ピッチ=15°、スキュー=0°、ロール=0°、周囲光<1600lx、常温、常湿、グローランプ蛍光灯下

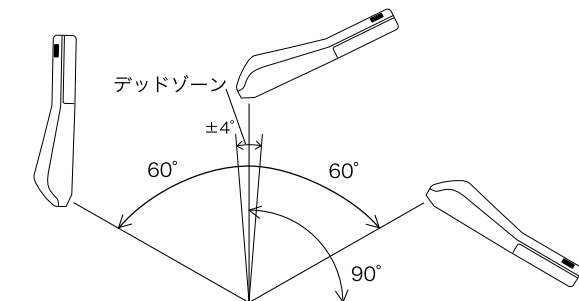
■バーコードの傾きと読取可能角度

バーコードの傾きには、次の3種類があります。



●スキュー

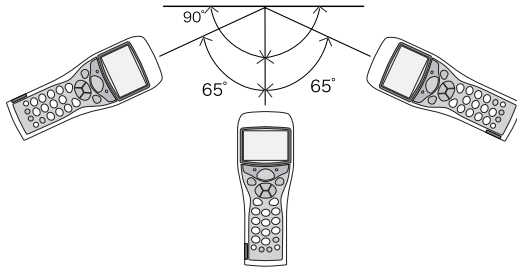
距離 254mm、分解能 0.508mm において、バーコードに対し垂直の上下 60°まで読取り可能です。



バーコード正面の垂直 $\pm 4^\circ$ は正反射によるデッドゾーンで、読取りが悪くなることがあります。
上手く読取れない場合は、角度を変えて再度読取りを行なってください。

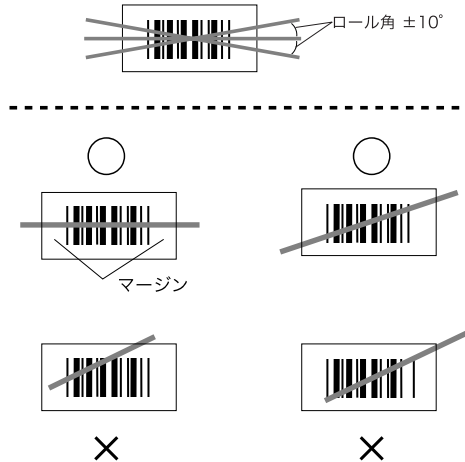
●ピッチ

距離 177.8mm、分解能 0.508mm において、バーコードに対し垂直の左右 65°まで読取り可能です。



●ロール

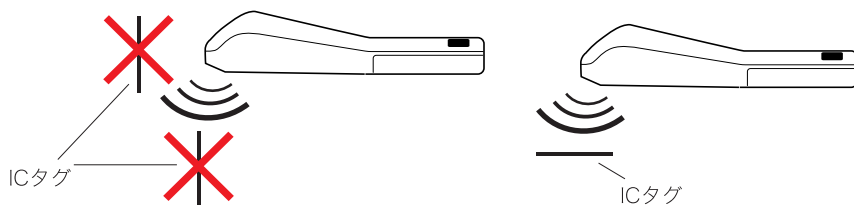
距離 254mm、分解能 0.508mm において、バーコードに対しレーザー光を照射する角度です。



必ずレーザー光がラベルを横切るようにしてください。また、バーコード左右の余白（マージン）も照射してください。

2-2-4 IC タグアクセス仕様

IC タグの読み取り/書き込みを行う際は、下図の様にタグ面にリーダーの読み取り口の面が平行になるようにかざします。



2-3 バッテリーカートリッジ（HBC-51）について



RCT-200-01 本体には、バッテリーカートリッジは同梱されていません。別途ご購入の上、正しくご使用ください。

バッテリーカートリッジの取り扱いの際は、必ず次のことに注意してください。

- ・ご購入頂きましたバッテリーカートリッジは、必ず充電してからご使用ください。
- ・バッテリーカートリッジの取り外しは必ず電源を切ってから行なってください。動作中にバッテリーカートリッジを取り外すと、プログラムやデータが破壊される恐れがあります。
- ・バッテリーカートリッジおよび本体の電極部は手で触ったり、ゴミが付着することがないようにしてください。接触不良の原因となります。
汚れがついてしまった場合は、乾いた柔らかい布等で拭き取ってください。
- ・バッテリーカートリッジの取り付けや取り外しは、足の上に落下させないように机の上などで行なってください。
- ・ご使用の際は、必ずバッテリーカバーをつけてください。

2-3-1 バッテリーカートリッジの充電

バッテリーカートリッジの充電は、専用充電器（HQC-51／HQC-54）を使用します。充電は約2.5 時間で完了します。



専用充電器（HQC-51／HQC-54）は、別途ご購入ください。
詳細については、専用充電器に付属の取扱説明書をご覧ください。

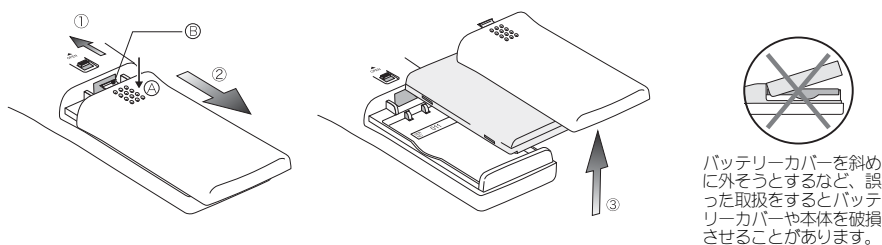
2-3-2 取り外し方

ロックレバーを①の方向に引き上げて、ロックを解除します。ロックが解除されるとロックレバーの赤色表示が見えなくなります。

バッテリーカバーを②の方向にスライドします。バッテリーカバーが固くて外しにくいときは、図のAの突起部分を矢印の方向に押しながらスライドさせます。

バッテリーカバーのツメ(図のBの部分)が完全に露出するまで②の方向にスライドします。

バッテリーカバーを③の方向にまっすぐ外して、中のバッテリーカートリッジを取り出します。

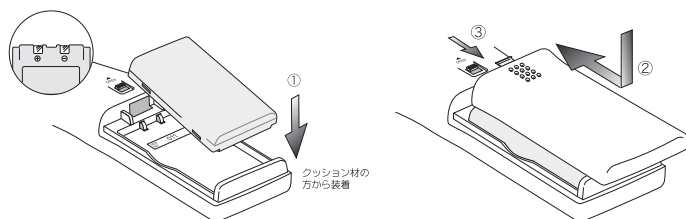


2-3-3 取り付け方

バッテリーカバーを外して本体の電極部とバッテリーカートリッジの電極部の位置を合わせ、バッテリーを①の様に挿入します。

バッテリーカバーを②の方向にスライドして取り付けます。

バッテリーカバーのつめが、完全に本体に挿入されたことを確認したら、ロックレバーを③の方向に戻します。完全にロックされバッテリーカバーが外れないことを確認してください。ロックされるとロックレバーの赤色表示が表れます。



2-3-4 バッテリーカートリッジの消耗と交換

バッテリーカートリッジは消耗品です。正しい使い方をしても、充放電を繰り返しているうちに、徐々に劣化していく性質があります。

規定の時間充電しても使用時間が極度に短くなるようであれば、新しいバッテリーカートリッジに交換してください。

■長期間の保管について

バッテリーカートリッジは長期間に渡り放置すると、過放電により電池が急激に劣化する恐れがありますので、定期的に充電してください。長期間使用しない場合は、次のことに注意してください。

- ・ 1 ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーカートリッジを取り外して室温で保管してください。

2-3-5 電極の清掃に関する注意

バッテリーの使用時間が短くなる、起動しにくくなる等の症状が見られる場合、バッテリーの劣化以外にも電極の汚れによる接触不良が原因となっていることがあります。汚れが原因の場合はバッテリーカートリッジ側、本体側の両方の電極を清掃することで症状が改善します。

■電極の清掃方法

清潔で乾いた柔らかい布、綿棒等で電極の汚れを拭きとってください。汚れた布や指、固い物では決してこすらないでください。また強く拭くと電極に傷がついたり、特に本体側の電極は変形する恐れがありますので、軽い力で拭くよう注意してください。

2-4 メモリバックアップ期間 (バックアップ用電池について)

メモリバックアップ期間は約 3 ケ月です。

RCT-200-01 には、バッテリーカートリッジの他に、RCT-200-01 の内蔵時計やドライブ S に保存されているデータの保持のために、バックアップ用電池が内蔵されています。
メモリバックアップ期間とは、このバックアップ用電池が満充電から完全に消耗するまでの期間のことです。

バッテリー	バッテリーカートリッジ	バックアップ用電池
	別売り	本体に内蔵
用途	RCT-200-01 の動作に必須	RCT-200-01 の内蔵時計やドライブ S に保存されているデータの保持
充電時間	2.5 時間 ※専用充電器 (HQC-51/HQC-54) 使用 (P.2-11)	RCT-200-01 に満充電のバッテリーカートリッジを装着し充電操作開始後、約 2 日 (P.2-15)
使用可能期間 (満充電時)	約 10 時間 設定条件は「2-2-1 製品仕様」 (P.2-4) 参照。	バッテリーカートリッジの完全消耗から約 3 ケ月
使用上の注意	3 ケ月以上充電しない場合、電池が劣化して、使用できなくなる恐れがあります。3 ケ月に 1 回程度充電を行なうようにしてください。 (P.2-13)	バッテリーカートリッジが完全に消耗している状態、または取り外したまま RCT-200-01 を 3 ケ月以上放置すると、バックアップ用電池も消耗し内蔵時計の情報やドライブ S に保存されていたデータは消失します。3 ケ月に 1 度は満充電されたバッテリーカートリッジを使用して、バックアップ用電池の充電を行なってください。(P.2-15)



バックアップ用電池の消耗により消失したデータは、復元できません。データ保持のためには、3 ケ月に 1 度は満充電されたバッテリーカートリッジを RCT-200-01 に装着して、一度 (P.W) キーを押して電源を ON にしてください。(「2-4-1 バックアップ用電池の充電」(P.2-15) 参照)
メモリバックアップの期間は温度等の周囲環境で大きく変わり、0℃以下の場所もしくは 40℃以上の場所で保存すると、バックアップ期間が急激に短くなります。バッテリーは、室温での使用をおすすめします。

2-4-1 バックアップ用電池の充電

バックアップ用電池の充電方法について説明します。

操作手順

- ① RCT-200-01(バッテリーカートリッジ無し)と満充電されたバッテリーカートリッジ 1 本を用意します。
- ② RCT-200-01 にバッテリーカートリッジを装着します。(P.2-12)



バッテリーカートリッジを装着しただけでは、充電は開始されません。

- ③ **(PW)** キーを押して電源を ON にすると、バックアップ用電池への充電が開始されます。
バックアップ用電池が完全に消耗していた場合は、この操作以降、最低 2 日間はバッテリーカートリッジを外さないでください。
- ④ 充電開始後、**(PW)** キーを押して電源を OFF にしても、バーコードの読み取りなど通常で使用を行なっても、一度バックアップ用電池への充電が開始されると、バッテリーカートリッジが外されるか完全に消耗するまでは、バックアップ用電池への充電を行ないます。
- ⑤ 充電中、バッテリーカートリッジが消耗してしまったり、取り外した場合は、バックアップ用電池への充電は停止します。再度、①から操作を行なってください。

2-4-2 ドライブ S のデータについて

RCT-200-01 はファイルを保存する領域として、ドライブ S とドライブ F の 2 つのドライブを持っています。

ユーザによって入力されたデータはドライブ S に保存されます。ドライブ S は、揮発性のドライブのため長期間充電を行わずに放置しておくとも内容が消失してしまうことがあります。ドライブ S のメモリバックアップの期間は、バックアップ用電池が満充電の状態から、室温で約 3 ヶ月を目安としてください。



アプリケーションプログラムはドライブ F に保存します。ドライブ F は不揮発性のため、保存内容はバッテリーが完全に消耗しても消失することはありません。

データの格納場所に関する詳細は、「3-1-1 データの格納場所」(P.3-3)をご覧ください。

2-5 レジューム機能について

RCT-200-01 はレジューム機能 (P.4-16) をサポートしており、システムメニューの設定によって (PW) キーによる電源 ON 時の動作を選択することができます。

レジュームモード ON	RCT-200-01 の電源を OFF にした後、次に (PW) キーで起動すると、電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。
レジュームモード OFF	RCT-200-01 の電源を OFF にした後、次に (PW) キーで起動すると、常に処理が最初から実行されます。



電源 ON 時にバッテリーを脱着した場合は、レジュームモードが ON であってもレジュームモード OFF 時と同様に最初からプログラムが実行されます。
また、DHCP 設定が「毎起動時に実行」である場合も、レジュームモード OFF 時と同様に最初からプログラムが実行されますのでご注意ください。



バックアップ用電池が消耗した場合、レジュームモードが ON であってもレジュームモード OFF と同様に最初からプログラムが実行されるのでご注意ください。バックアップ用電池の充電については「2-4-1 バックアップ用電池の充電」(P.2-15) を参照してください。

2-6 画面出力キャラクタ

■全角文字

全角文字は、シフト JIS (OADG の 2 バイト文字セット) を使います。

シフト JIS は第 1 バイトが 81~9F、E0~FC、第 2 バイトは 40~7E、80~FC にあります。次の表は、弊社で作成した拡張文字一覧です。

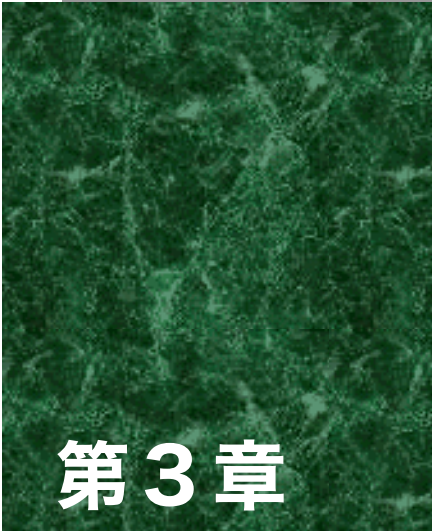
シフト JIS	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
f040																
f050	N _U	S _H	S _X	E _X	E _T	E _Q	A _K	B _L	B _S	H _T	L _F	V _T	F _F	C _R	S _O	S _I
f060	D _L	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄	N _K	S _Y	E _B	C _N	E _M	S _B	E _C	F _S	G _S	R _S	U _S
f070	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	Ⓜ	Ⓒ	Ⓟ	Ⓢ	Ⓢ	
f080	←	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	⌒	⌒	⌒	⌒	▷	▷	▷
f090	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
f0a0	入力	□	△	□	☺	☹	○	◎	●	○	□	□	□	□	L	□
f0b0	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	H	jH	H
f0c0	↕	↔	↕	↔	↔	↑	←	↓	↕	↔	→	↑	←	↓	↕	↔
f0d0	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨
f0e0	◁	▽	△	▷	▲	▼	◀	▶	◀	▶	Ⓓ	⓪	ENT	◀	◀	◀
f0f0	J _A	U _P	N _W	I _T	I _N	C ₃	C ₁₂₈	I ₂₈	C ₁₂	C ₁₂₈	W _P	I _N	C ₉₃			

■半角文字

半角文字は、OADG の 1 バイト文字セットを使います。

80、A0、FD、FE、FF の 5 文字は弊社で作成した拡張文字です。

上 位 下 位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		⦿		0	@	P	'	p	△		┘	ー	タ	ミ		
1	┘		!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	┘	↑↓	"	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	┘		#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	┘	▨	\$	4	D	T	d	t			,	エ	ト	ヤ		
5	┘	┘	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	=	┘	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	↓	┘	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8			(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	○	┘	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A		▨	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	▨	←	+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C		↑	,	<	L	¥	l				ヤ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ン		S
E	■	→	.	>	N	^	n	—			ヨ	セ	ホ	°		入
F	※	←	/	?	O	_	o				ツ	ソ	マ			カ

A green textured background, possibly representing grass or a similar natural surface, with a dark green border on the right side.

第3章

ソフトウェア編

A thin horizontal bar with a green textured background, matching the one above.

3-1 RCT-200-01に搭載されているソフトウェアについて

RCT-200-01 のソフトウェアは、次の2種類で構成されています。

システムプログラム	RCT-200-01 の基本動作を制御するプログラムです。パソコンの OS(基本ソフトウェア)に相当するもので、あらかじめ RCT-200-01 に搭載されています。基本的な動作パラメータの設定や各種確認作業を行なう「システムメニュー」はシステムプログラムの一部です。
アプリケーションプログラム	ユーザ業務処理の際に使用するプログラムです。バーコードの読取りや、IC タグの読み書き、コンピュータへのデータ転送などは、主にこのプログラムを使用します。RCT-200-01 では「WebGlider II」を使ってシステムを構築する場合のために、あらかじめ「RCT-200-01 用ブラウザ (WEB200R.OUT)」がロードされています。「WebGlider II」をご購入頂くと、RCT-200 用ブラウザとの組み合わせで容易に Web 型のシステムを構築することができます。また別売りのアプリケーション開発キットを使用して、ユーザ独自のプログラムを作成する事ができ、幅広い業務に対応が可能です。



システムメニューについての詳細は、「4-2 システムメニュー」(P.4-3)をご覧ください。



「WebGlider II」についての詳細は、製品パッケージに付属のオンラインマニュアルをご覧ください。

3-1-1 データの格納場所

■データの格納場所について（ドライブの構成）

RCT-200-01 にはデータを格納する領域として、ドライブ S とドライブ F の 2 つのドライブを持っています。

ドライブ	データ保持	用途	最大保存数
ドライブ S	●揮発性メモリ バックアップ用電池が無くなった後は、ドライブの内容は消失します。	頻繁に書き換えが行なわれるファイルを格納する領域として使用します。	32 ファイル
ドライブ F	●不揮発性メモリ バックアップ用電池が無くなった後も、ドライブの内容は保持されます。	アプリケーション、データベースマスターファイル等書き換えの起こらないファイルを格納するための領域として使用します。	50 ファイル

ドライブ F にファイルを受信する場合、ファイルを一度ドライブ S に受信した後にドライブ F へ移動します。ファイルをドライブ F に受信する際には、あらかじめ受信するファイルを格納するのに十分な空き領域がドライブ S にあることをご確認ください。

また、ドライブ S に同名のファイルがあった場合、ドライブ F へファイルを移動した後、ドライブ S にあったファイルは消去されます。

■ファイル名について

RCT-200-01 で使用できるファイル名には、次の制限があります。

ファイル名	1～8 バイトの長さで、アルファベット（A～Z）、数字（0～9）、一部の記号（!#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[_`{ }~）を任意に組み合わせて作成することができます。 全角文字は使用できません。
拡張子	1～3 バイトの長さで指定してください。拡張子を省略することもできます。使用できる文字はファイル名と同じです。 拡張子を指定する場合は、ファイル名との間に「.」が必要になります。 「.OUT」という拡張子のファイルをアプリケーションとして認識します。 「.FNV」という拡張子のファイルをフォントファイルとして認識します。

3-1-2 システムメニューについて

システムメニューでは、RCT-200-01 の基本的な動作設定やアプリケーションプログラムのインストール、データファイルの転送などを行ないます。



システムメニューについての詳細は、「4-2 システムメニュー」(P.4-3)をご覧ください。

第4章

設定編

4-1 はじめに

RCT-200-01 では「システムメニュー」を使用して、ネットワーク通信設定、動作設定、アプリケーションプログラムのインストール、データファイルの転送、各種確認作業等を行なうことができます。

■システムメニュー

システムメニューとは、システムプログラム(P.3-2)の一部で、オペレーティングシステムを構成する機能の一部として RCT-200-01 に標準搭載され、システム全体の環境設定とアプリケーションプログラムをインストール・実行するためのプラットフォームを提供します。

この章では、「システムメニュー」の使い方を中心に、RCT-200-01 の動作設定や各種確認作業について説明します。

4-2 システムメニュー

4-2-1 システムメニューの操作

システムメニューの操作には、次のキーを使用します。

	1 つ前のメニューに戻ります。
① ～ ⑨	該当する番号のメニュー項目を選択します。
	メニュー項目の選択を確定します。
	バックライトを点灯します。
(←) (↑) (↓) (→)	メニュー項目に表示されているカーソル(選択領域)を矢印の方向に移動します。

■操作方法

●メニュー項目を選択する

各メニューの左にある項目番号に該当するテンキー(①～⑨)を押すか、～を押してカーソルを任意の方向に移動します。カーソルの移動したメニュー項目は、ハイライト表示(反転表示=選択されている状態)になります。この状態で キーを押します。選択したメニュー項目に該当する機能が実行するか、または次のメニューを表示します。

< システムメニュー >

1:システム	4:ファイル
2:ネットワーク	5:確認
3:端末ID	6:テスト

●前のメニューに戻る

前のメニューに戻るときは キーを押します。戻り先のメニューでは、直前に選択していたメニュー項目をハイライト(反転)表示します。

■画面の表示について

表示されるメニュー（画面）によっては、項目の左側に「F:～」または「S:～」のようなアルファベットが表示される場合があります。項目の左側に表示されているアルファベットは、「F」=「ドライブ F」、「S」=「ドライブ S」を表わします。

すべてのメニュー項目が 1 画面に収まらない場合は、画面の左側に[↑](画面の上にメニュー項目が隠れている場合)または[↓](画面の下にメニュー項目が隠れている場合)を表示します。また、隠れているメニュー項目にカーソルを移動すると、自動的に画面がスクロールします。

＜ 自動実行の設定 ＞		
F: SAMPLE. OUT	35K	
F: SAMPLE1. OUT	35K	
F: SAMPLE2. OUT	35K	
(F) SAMPLE3. OUT	35K	

■IP アドレス等の設定について

IP アドレス等は、「000.000.000.000」のような形式で設定します。値を変更する場合は、変更する箇所へカーソルを移動して、新しい値を上書き入力してください。

◎キーや(BS)キーによる入力値の修正はできません。

また、3 桁に満たない値は、「001」のように 3 桁で入力してください。

4-3 システムメニューの起動

4-3-1 起動方法

操作手順

- ① バッテリーカートリッジが正しく装着され、電源が OFF の状態で、**(PW)** キーを 1 秒程度押し続けると RCT-200-01 の電源が ON になりシステムメニューが起動します。
- ② オープニング画面の表示後に、システムメニューが表示されます。DHCP 設定 (P.4-26) が「毎起動時に実行」に設定されている場合は、DHCP リクエスト実行後にシステムメニューが表示されます。

RCT-200-01
(C) 2004 Welcat Inc.

自動実行プログラム (P.4-7) にアプリケーションが選択されている場合は、読取キーを押しながら **(PW)** キーを押すと、システムメニューが起動します。

< システムメニュー >

1: システム	4: ファイル
2: ネットワーク	5: 確認
3: 端末 ID	6: テスト

4-3-2 DHCP リクエストの実行

ネットワークの DHCP 設定 (P.4-26) が、「毎起動時に実行」に設定されている場合、RCT-200-01 を起動直後に DHCP リクエストが実行されます。

ネットワーク管理ツールがあれば、アクセスポイントと無線通信が可能な状態で、TCP/IP ネットワーク上にネットワーク管理ツールの

の DHCP サーバと FTP サーバが起動と設定をすることで、RCT-200-01 の各種環境設定値や指定されたファイルをダウンロードし、自動的に設定を行ないます。

一般的な DHCP サーバでも IP アドレス等の設定をすることは、可能です。端末が、ネットワーク管理ツールの DHCP サーバにアクセスするか、一般的な DHCP サーバにアクセスするかは、端末の設定 (P.4-26) によります。

自動実行プログラム (P.4-7) にアプリケーションが選択されている場合は、DHCP リクエストが実行された後に、アプリケーションが起動します。

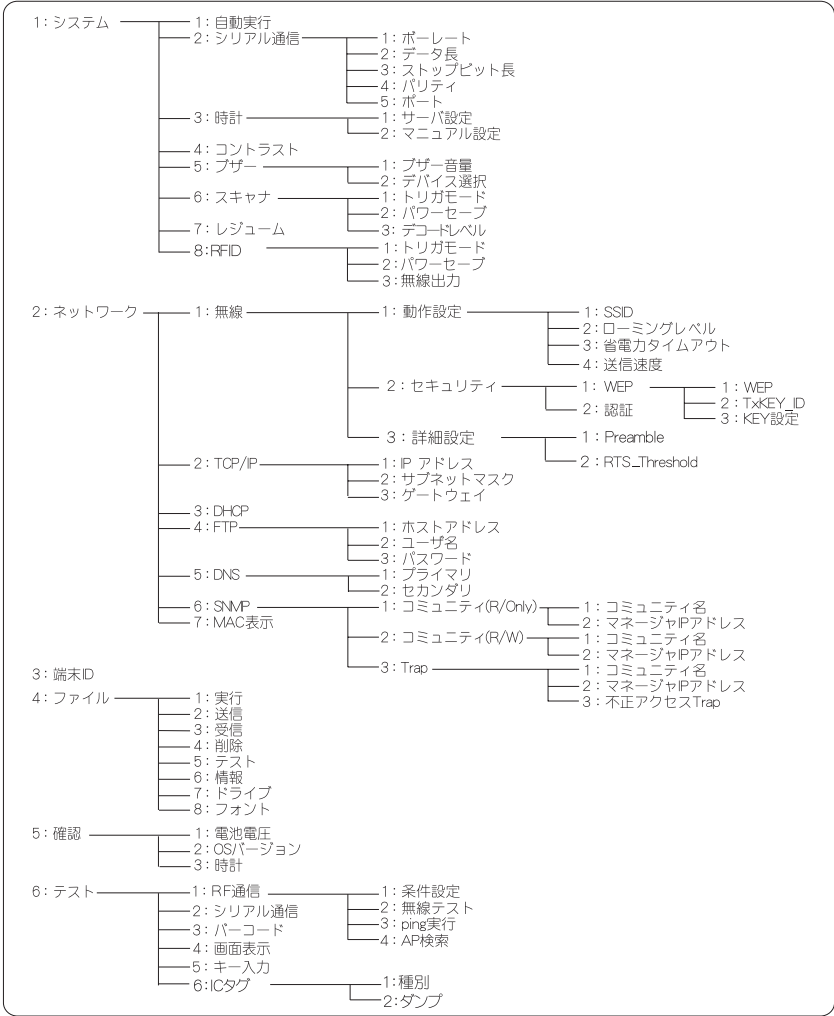
< DHCP リクエスト実行中 >

サーバにアクセス
しています

4-3-3 起動直後の無線動作状態

RCT-200-01 の起動直後は、無線通信部は停止状態となっています。そのため起動直後に無線通信関連のメニューを選択すると、約 0.5 秒～1 秒後に通信可能状態になります。

4-4 システムメニュー一覧



システムメニューの出荷時設定については、「付録 A システムメニュー出荷時設定」（付録 A-2）を参照してください。

4-5 システム設定メニュー

4-5-1 自動的に起動するプログラムの設定

電源を ON にしたときに、自動的に起動するプログラムの設定を行ないます。出荷時の状態では、システムメニューが設定されています。

DHCP 機能(P.4-26)を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

- ① システムメニューから「1:システム」を選択します。

< システム メニュー >

1:システム	4:ファイル
2:ネットワーク	5:確認
3:端末ID	6:テスト

- ② 「1:自動実行」を選択します。

< システム設定 >

1:自動実行	5:ブザー
2:シリアル通信	6:スキャ
3:時計	7:レジューム
4:コントラスト	8:RFID

- ③ 「1:システムメニュー」または「2:アプリケーション」を選択します。最下行には、現在設定されているプログラム名を表示します。

< 自動実行の設定 >

1:システムメニュー
2:アプリケーション

[システムメニュー]

- ④ 「1:システムメニュー」を選択すると、電源投入後の自動実行はシステムメニューに設定されます。
「2:アプリケーション」を選択した場合は、インストールされているアプリケーションの一覧が表示されますので、この中から選択します。

< 自動実行の設定 >

F:WEB811S.OUT 200K

- ⑤ アプリケーションを選択すると、最下行には選択したアプリケーション名を表示します。

■アプリケーションが格納されていない場合

アプリケーションが 1 つもない場合は、「ファイルがありません」と表示します。

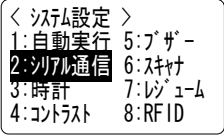
◎ キーを押すと、1 つ前の画面に戻ります。

4-5-2 シリアル通信の設定

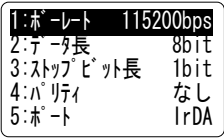
シリアルポート(RS-232C または IrDA)の通信条件を設定します。DHCP 機能(P.4-26)を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

① システムメニューから「1:システム」を選択します。



② 「2:シリアル通信」を選択すると、現在の通信設定を表示します。



各項目にカーソルを合わせて、**[Enter]** キーを押すと現在設定されている値を変更できます。設定できる項目と数値は次のとおりです。

項目	設定可能範囲	出荷時設定値
1:ボーレート	2400bps・9600bps・19200bps・38400bps・57600bps・115200bps	115200bps
2:データ長	7ビットまたは 8ビット	8ビット
3:ストップビット長	1ビットまたは 2ビット	1ビット
4:パリティ	奇数パリティ・偶数パリティ・なし	なし
5:ポート	IrDA(赤外線通信)または RS-232C	IrDA

4-5-3 時計の設定

ホストコンピュータに時刻を問い合わせて、システムの時計を設定します。
マニュアルで設定することもできます。DHCP 機能(P.4-26)を使用している場合、自動設定が可能です。

ホストコンピュータから時刻を受け取るには、あらかじめ次の事項を確認してください。

- ・ 通信設定 (SSID、WEP 等) は正しく設定されているか
- ・ アクセスポイントとホストコンピュータは正しく設定、接続されているか
- ・ アクセスポイントとホストコンピュータの電源は入っているか
- ・ アクセスポイントは正常に動作しているか



無線ネットワークの構成に関する詳細は、アクセスポイント（弊社推奨品）付属のマニュアルをご覧ください。

操作手順

① システムメニューから「1:システム」を選択します。

② 「3:時計」を選択します。

＜システム設定＞
1:自動実行 5:ブザー
2:シリアル通信 6:スキャ
3:時計 7:レジューム
4:コントラスト 8:RFID

③ 「1:サーバ設定」または「2:マニュアル設定」を選択する

＜時計の設定＞
1:サーバ設定
2:マニュアル設定

④ 「1:サーバ設定」を選択すると、「WebGlider II」ネットワーク管理ツールの DHCP サーバから時刻データを受け取ります。受信が完了すると、設定された時刻が表示されます。

Ⓢ キーを押すと 1 つ前の画面に戻ります。

＜時計の設定＞
サーバに時刻を
問い合わせています



時計の設定で「サーバ設定」を行なう場合、「WebGlider II」ネットワーク管理ツールの DHCP サーバが起動していなければなりません。

＜ただいまの時刻＞

2003 / 07 / 01
02 : 35 : 47

- ⑤ 無線通信がうまく行えなかった場合は、数秒後にマニュアル設定の確認画面となります。

再度サーバから時刻を受け取る場合は、「1:リトライ」を選択した状態で ENT キーを押します。

時計の設定を中止するには、 C キーを押します。

- ⑥ 時刻を自分で入力する場合は、③または⑤の画面で「2:マニュアル」を選択して時刻の入力状態にします。

F5 キーや F8 キーで設定する年月日時分秒を選択し、テンキーで値を入力します。 ENT キーを押して設定を確定します。入力を中止して元の値に戻すには、 C キーを押します。

< 時計の設定 >

設定に失敗しました
マニュアル設定できません
1:リトライ 2:マニュアル

< 時計の設定(マニュアル) >

2003 / 07 / 01
02 : 35 : 47

ここで設定した時間は、「4-9-3 時計」(P.4-46)で確認できます。

4-5-4 画面コントラストの調節

液晶画面のコントラストを設定(8段階)します。

操作手順

- ① システムメニューから「1:システム」を選択します。
② 「4:コントラスト」を選択します。

< システム設定 >

1:自動実行 5:ブザー
2:シリアル通信 6:スキャ
3:時計 7:メニュー
4:コントラスト 8:RFID

- ③ 画面コントラストを設定します。

F5 キーを押すと表示は一段階薄くなります。

F8 キーを押すと表示は一段階濃くなります。

ENT キーを押して確定すると、前の画面に戻ります。

入力を中止して元の値に戻すには、 C キーを押します。

< 画面コントラストの設定 >

F5 ← → F8
L [] [] [] [] H
表示レベル 表示レベル

4-5-5 ブザーおよびバイブレータの設定

キー操作や読取り確認の際に鳴るブザーを、バイブレータに設定したりブザーとバイブレータを両方使用するように設定することができます。

操作手順

- ① システムメニューから「1:システム」を選択します。
- ② 「5:ブザー」を選択します。

＜システム設定＞	
1:自動実行	5:ブザー
2:シリアル通信	6:スキャン
3:時計	7:レジューム
4:コントラスト	8:RFID

■ブザー音量の調節

ブザーの音量を設定(8段階)します。

操作手順

- ① 「1:ブザー音量」を選択すると、ブザー音量を設定することができます。

＜ブザーの設定＞	
1:ブザー音量	3
2:デハイス選択 ブザー	

- ② ブザーの音量を設定します。
 - ◀F5▶ キーを押すと1段階小さくなります。(最小値 1)
 - ◀F6▶ キーを押すと1段階大きくなります。(最大値 8)
 - ◀ENT▶ キーを押して設定を確定します。
 - ◀F5▶ キーを押して値を一番左(“1”)にすると、無音(バイブレータは無振動)になります。

入力を中止して元の値に戻すには、◀C▶ キーを押します。

＜ブザー 音量の設定＞	
F5←	→F8
L	H



バイブレータはブザーの音量(2～8)設定に関らず、常に一定の振動をします。

■デバイスの選択

操作手順

①「2:デバイス選択」を選択すると、ブザーとバイブレータの動作を設定することができます。

＜ブザー の設定＞

1:ブザー音量 3
2:デバイス選択 ブザー

②「1:ブザー」=“ピー”という音が鳴ります。

「2:バイブ」=本体が振動します。

「3:両方」=“ピー”という音と同時に本体が振動します。

＜デバイスの選択＞

1:ブザー
2:バイブ
3:両方

4-5-6 スキャナの設定

アプリケーションプログラム実行時のレーザースキャナーの動作条件を設定します。

操作手順

- ① システムメニューから「1:システム」を選択します。
- ② 「6:スキャナ」を選択します。

＜システム設定＞
 1:自動実行 5:ブザー
 2:シリアル通信 6:スキャナ
 3:時計 7:メニュー
 4:コントラスト 8:RFID

■トリガモードの設定

読取キーの動作を設定します。

操作手順

- ① 「1:トリガモード」を選択します。

＜スキャナの設定＞
 1:トリガモード
 2:ハザード
 3:デコードレベル

●ノーマルトリガ

読取キーを押すとレーザーが点灯し、常に読取りができます。

●デコードトリガ

読取キーを押すとレーザーが点滅します。

もう一度押すと点灯して読取りを開始します。

●リリーストリガ

読取キーを押すとレーザーが点滅し、読取キーを離すと点灯して読取りを開始します。

＜トリガモードの設定＞
 1:ノーマルトリガ
 2:デコードトリガ
 3:リリーストリガ

■レーザー照射時間の設定

トリガモードを設定した後、「レーザー照射時間」を設定します。

設定は秒単位で 0～65536 秒の範囲で数値を設定します。指定した時間内にバーコードが読取られない場合は、レーザーを消灯します。

0 秒に設定した場合は、レーザーは点灯したままになります。

＜レーザ-照射時間＞
 [00020 秒]

■パワーセーブモードの設定

読取り時のバッテリー消費を抑えるための設定をします。

操作手順

- ①「2:パワーセーブ」を選択します。

＜ スキャンの設定 ＞
1:トリガモード
2:パワーセーブ
3:デコードレベル

●セーブしない

パワーセーブモードを使用しません。

＜ パワーセーブの設定 ＞
1:セーブしない
2:クイックセーブ
3:フルセーブ

●クイックセーブ

バーコードの読取りに成功するとレーザーを自動的に消灯します。

ただしスキャナ部への電源の供給は行なわれているため、フルセーブに比べて次に読取りを開始する際の起動時間を短縮できます。

●フルセーブ

バーコードの読取りに成功すると、スキャナ部への電源の供給を停止します。次に読取りを開始する際の起動時間はクイックセーブに比べて長くなります。

■デコードレベルの設定

バーコードの読み取りチェックのレベルを設定します。

操作手順

- ①「3:デコードレベル」を選択します。

＜ ｽﾔｸﾍﾞﾙの設定 ＞
1:ﾄﾘｶﾞｰﾓｰﾄﾞ
2:ﾊﾞｰｸｵｰﾀﾞ
3:ﾃﾞｺｰﾄﾞﾚﾍﾞﾙ

●緩い

バーコードの読み取りチェックを緩くします(下記、注意参照)。

＜ ﾃﾞｺｰﾄﾞﾚﾍﾞﾙの設定 ＞
1:緩い
2:通常
3:厳しい
[2:通常]以上を推奨

●通常（推奨設定）

バーコードの読み取りチェックを通常通り行います。

●厳しい

バーコードの読み取りチェックを厳しくします。



「通常」または「厳しい」に設定することを強く推奨します。

デコードレベル「緩い」に設定するとバーコードを誤読してしまう可能性があります。この場合は、アプリケーションプログラムにおいて、必ずコード種別のチェック、桁数のチェック、チェックデジットによるチェック等を行うようにしてください。

4-5-7 レジュームモードの設定

レジューム機能の設定をします。

操作手順

- ① システムメニューから「1:システム」を選択します。
- ② 「7:レジューム」を選択します。

＜システム設定＞
1:自動実行 5:ブザー
2:シリアル通信 6:スキャナ
3:時計 7:レジューム
4:コントラスト 8:RFID

●レジューム ON

RCT-200-01 の電源を OFF にした後、次に (PW) キーで起動すると、電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。

＜レジュームモードの設定＞
1:ON
2:OFF

レジューム ON 設定で起動すると、右の画面が表示されます。
(読取キーを押しながら (PW) キーを押して起動すると、レジュームはキャンセルされ、再起動処理は最初から実行されます。)

レジューム起動中

レジューム ON 設定で電源 OFF 直前に、右の画面が表示されます。
(バッテリーカートリッジを外す場合は、右の画面が消えてから 3 秒程度時間を置いてから外してください。)

レジューム終了中



これらの画面表示中に絶対にバッテリーカートリッジを外さないでください。この時にバッテリーカートリッジを外すと起動できなくなる可能性があります。

●レジューム OFF

RCT-200-01 の電源を OFF にした後、次に (PW) キーで起動すると、常に処理が最初から実行されます。



レジューム機能は、(PW) キーを使用した電源 OFF/ON のときに有効な機能です。動作中にバッテリーカートリッジを脱着すると、レジューム機能の設定に関らず再起動処理は最初から実行されます。また、電源 OFF の状態でバッテリーカートリッジを着脱した場合でも、DHCP 設定が「毎起同時に実行」である場合、再起動処理が最初から実行されます。

4-5-8 RFID の設定

アプリケーションプログラム実行時の IC タグリーダーライタの動作条件を設定します。

操作手順

- ① システムメニューから「1:システム」を選択します。
- ② 「8:RFID」を選択します。

< システム設定 >
 1:自動実行 5:ブザー
 2:シリアル通信 6:スキャナ
 3:時計 7:レジューム
 4:コントラスト 8:RFID

■トリガモードの設定

トリガモード中の読取キーの動作を設定します。

操作手順

- ① 「1:トリガモード」を選択します。

< RFID設定 >
 1:トリガモード
 2:ハーフセーフ
 3:無線出力

- ノーマルトリガ
読取キーを押すと読取り処理を開始します。
- オートトリガ
読取キーに関係せずに、連続的に読取り処理を実行します。
- セミオートトリガ
読取キーを押している間、連続的に読取り処理を実行します。

< トリガモードの設定 >
 1:ノーマルトリガ
 2:オートトリガ
 3:セミオートトリガ

■読取りタイムアウト

トリガモードのノーマルトリガを設定した後、読取り処理を実行する時間を設定します。設定は、秒単位で 0～65536 秒の範囲で数値を設定します。指定した時間内に IC タグが読取られない場合は、読取り処理を停止します。

0秒に設定した場合は、タイムアウトしません。

< 読取りタイムアウト >

[00020 秒]

■パワーセーブの設定

読取り時のバッテリー消費を抑える為の設定をします。

操作手順

- ① 「2:パワーセーブ」を選択します。

< RFID設定 >

- 1:トリガモード
2:パワーセーブ
3:無線出力

- セーブしない
パワーセーブモードを使用しません。
- フルセーブ
読取り処理の停止時に電波も停止します。消費電力を抑える事ができますが、電波を停止するためアンチコリジョンのパフォーマンスが落ちることがあります。

< パワーセーブの設定 >

- 1:セーブしない
2:フルセーブ

■無線出力設定

ICタグアクセスのための出力を設定します。

操作手順

- ① 「3:無線出力」を選択します。

< RFID設定 >

- 1:トリガモード
2:パワーセーブ
3:無線出力

- ② 選択したい項目を選択して **[ENT]** キーを押すと設定することができます。

< RFID無線出力設定 >

- 1:低出力
2:中出力
3:高出力



本設定は、直接 RFID モジュールに保存されます。また、アプリケーションからも設定を変更できるため、システムで行った変更が、アプリケーションにより書き換えられることがあります。

4-6 ネットワークメニュー

RCT-200-01 の無線通信および TCP/IP 通信に関する設定をします。

4-6-1 無線通信の設定

アクセスポイントと無線通信をするための設定をします。

4-6-1-1 動作設定

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「1:無線」を選択します。

```
< ネットワーク >
1:無線      5:DNS
2:TCP/IP    6:SNMP
3:DHCP      7:MAC表示
4:FTP
```

- ③ 「1:動作設定」を選択します。

```
< 無線の設定 >
1:動作設定
2:セキュリティ
3:詳細設定
```

- ④ 設定したい項目を選択して、**(ENT)** キーを押すと設定することができます。新しい値を設定したら **(ENT)** キーを押して変更内容を確認します。

```
< 無線動作設定 >
1:SSID
2:ロミングレベル NORMAL
3:省電力タイムアウト 01秒
4:送信速度 Auto
```

SSID を設定する場合は、**(SF)** キーを押すと英字の入力が可能です。

トリガキーを押すと、バーコード読取りによる設定も可能です。

第4章 設定編

■SSID の設定

SSID の設定を行います。32 文字までの半角英数記号で大文字、小文字は区別されます。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合自動設定が可能です。ただし、DHCP 機能を使用することでセキュリティ上の弱点となるためなるべく使用しないでください (SSID の詳細については P.4-21 参照)。

■ローミングレベル

端末が移動した際に電波がより強いアクセスポイントを自動的に選んで切り替える機能をローミングといいます。この切り替えを行なう判定値がローミングレベルです。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合自動設定が可能です。

同じ SSID のアクセスポイント間でのみローミングします。

設定可能値	FAST、NORMAL、SLOW
	FAST (ローミングし易い) ←NORMAL→ SLOW (ローミングしにくい)

■省電力タイムアウト

送信終了後に無線部が省電力モードに切り替わるまでの時間です。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合自動設定が可能です。この時間が短いほどバッテリーの消費量が少なくなりますが、無線の応答性が低下します。

省電力モードの応答時間はアクセスポイントのビーコン間隔、DTIM 設定により変化します。詳細はアクセスポイントのマニュアルを参照してください。

設定可能値	すぐ、1 秒、なし
-------	-----------

■送信速度

送信速度を設定します。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合自動設定が可能です。次のいずれかを選択できます。

Auto	送信速度は自動的に変更されます。
1Mbps	送信速度は 1Mbps 固定です。
2Mbps	送信速度は 2Mbps 固定です。
1or2M	送信速度は 1Mbps、2Mbps でのみ自動的に変更されます。
5.5Mbps	送信速度は 5.5Mbps 固定です。
11Mbps	送信速度は 11Mbps 固定です。

●SSID (ESSID)

SSID は端末 (RCT-200-01) とアクセスポイントが通信を行うために使用する一意の識別子です。端末は同じ SSID をもつアクセスポイントとしか通信できないので、第三者が不正侵入する危険が若干さがります。端末の SSID が"ANY"設定 (または設定文字なし) の場合、端末は接続可能なアクセスポイントを自動的に捜し接続を試みます。



アクセスポイントの設定によってはセキュリティ上"ANY"設定を拒否することがあります。詳細はアクセスポイントのマニュアルを参照ください。

ネットワーク内に同じ SSID のアクセスポイントを複数設定することが可能で、端末は同じ SSID のアクセスポイント間でのみローミングします。

4-6-1-2 セキュリティ設定

操作手順

① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。

② 「1:無線」を選択します。

< ネットワーク >
 1: 無線 5: DNS
 2: TCP/IP 6: SNMP
 3: DHCP 7: MAC表示
 4: FTP

③ 「2:セキュリティ」を選択します。

< 無線の設定 >
 1: 動作設定
 2: セキュリティ
 3: 詳細設定

④ 設定したい項目を選択して **(ENT)** キーを押します。

< セキュリティ >
 1: WEP
 2: 認証 OPEN

■WEP（詳細は P.4-23 参照）

WEP を「無効」、「40bit」、「128bit」から選択します。

< WEP の設定 >

1: WEP	無効
2: TxKEY_ID	KEY1
3: KEY 設定	

●TxKEY_ID

次の「KEY 設定」で設定された KEY1～KEY4 のなかで、送信に使用する ID を選択します。WEP 設定が「無効」以外のとき有効になります。



ここで設定された TxKEY_ID の WEP キーの内容とアクセスポイントの WEP キーの内容が一致し、かつアクセスポイントで設定されている TransmitKEY の WEP キーの内容と端末側の WEP キーの内容が一致していなければ通信できません。

例えば、端末の TxKEY_ID を「2」とした場合、端末の WEP キー2の内容とアクセスポイントの WEP キー2の内容が一致する必要があります。逆にアクセスポイントの TransmitKey を「3」とした場合、アクセスポイントの WEP キー3の内容と端末の WEP キー3の内容が一致する必要があります。

●KEY 設定

各 WEP キー（1、2、3、4）の内容の設定を行います。

設定できる文字は「0」～「9」、「A」～「F」、「a」～「f」です。「WEP」で 40bit を選択した場合 10 文字固定で、128bit を選択した場合は 26 文字固定になります。実際の入力には常に 26 文字であり、40bit 選択時はその 26 文字の前半の 10 文字が採用されます。トリガキーを押すと、バーコード読取による設定も可能です。



各 WEP キーの設定は上書きはできますが、編集はできません。

KEY 設定画面に入るとセキュリティ上の観点から常に「00000...」を表示するようになっています。

■認証（詳細は P.4-23 参照）

OPEN	「Open 認証」方式を設定します。
SHARED	「Shared Key 認証」方式を設定します。

< 認証 >

1: OPEN
2: SHARED



「Shared Key 認証」方式を使用すると、暗号化前と暗号化されたチャレンジコードが第三者に傍受される危険性があります。このことにより容易に WEP キーが割り出されます。よって「Shared Key 認証」方式はセキュリティ上に弱点があるためなるべく使用しないでください。



アクセスポイントによってはこのような認証分類を公開していないものもあります。その場合は「Open 認証」で試し、接続ができなければ「Shared Key 認証」で試してください。

● WEP (Wired Equivalent Privacy)

IEEE802.11b は一般的な無線規格であるため、第三者により容易に傍受されてしまう可能性があります。アクセスポイントと端末(RCT-200-01)の無線通信データを暗号化の標準である WEP を使用することによって傍受の危険を回避することができます。RCT-200-01 は「40bit(64bit と同じ)」と「128bit」の 2 種類の WEP キー(共通鍵)に対応しています。

● 認証

認証方式として「Open 認証」と「Shared Key 認証」方式の 2 種類があります。

- ・ 「Open 認証」方式

端末(RCT-200-01)からの認証要求フレームを受信するとアクセスポイントは認証応答フレームを返信しデータ通信を許可します。

WEP が有効の場合、両者の WEP キーが合っていない場合は認証ができてデータ通信が行えません。

- ・ 「Shared Key 認証」方式

端末から認証要求を行うと、アクセスポイントは暗号化されていない身元要求証明用テキスト文字列(以後チャレンジコードとする)を送信します。その後、端末はチャレンジコードを WEP キーで暗号化して返送します。アクセスポイントはチャレンジコードを WEP キーで復号して送信したチャレンジコードと同じことを確認して認証を許可します。

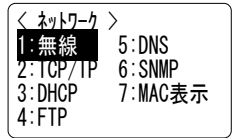


暗号化前と暗号化されたチャレンジコードが第三者に傍受されると容易に WEP キーが割り出されます。よって「Shared Key 認証」方式はセキュリティ上に弱点があるためなるべく使用しないでください。

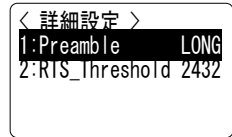
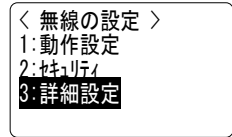
4-6-1-3 詳細設定

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「1:無線」を選択します。



- ③ 「3:詳細設定」を選択します。



■Preamble

プリアンプルの設定を行います。
プリアンプルとは無線パケットの先頭部にあるデータ部で、アクセスポイントと端末間の無線パケット送受信に必要な情報が含まれています。「Short プリアンプル」の方がスループットは向上します。

LONG	Long プリアンプルを設定します。
SHORT	Short プリアンプルを設定します。



アクセスポイントにより Short プリアンプルを受信しない場合があります。その場合は Long プリアンプルに設定してください。アクセスポイントのマニュアルを参照し、確認してください。

■RTS Threshold

データパケットの送信前に RTS パケットを送信するかどうかを判断します。データパケットサイズが設定値より大きい場合は RTS パケットを送信し、RTS-CTS 制御を行います。同じアクセスポイントに多数の端末が接続しているとき、または端末が遠くに分散しているためにアクセスポイントの検知は可能でも端末同士が互いに検知できない場合に RTS-CTS 制御は有効になります。RTS-CTS 制御は上記の場合は有効ですが、それ以外ではスループットが低下します。通常はデフォルト設定値(2432 バイト)にしてください。

設定範囲	0～3000 バイトの偶数値 (奇数の場合は+1 されます)
------	--------------------------------

4-6-2 TCP/IP の設定

IP アドレスなど TCP/IP 通信を設定します。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「3:TCP/IP」を選択します。

```
< ネットワーク >
1:無線          5:DNS
2:TCP/IP       6:SNMP
3:DHCP         7:MAC表示
4:FTP
```

- ③ 設定したい項目を選択して、**ENT** キーを押すと数値を設定することができます。ピリオドで区切られた 4 つのフィールドに以下の数値を設定します。

設定可能値	0~255
-------	-------

例) 192.168.254.254

```
< TCP/IPの設定 >
1:IP>192.168.254.254
2:サブ ネットマスク
3:ゲートウェイ
```

- ④ 新しい値を設定したら **ENT** キーを押して、変更内容を確定します。

●IP アドレス

ネットワーク管理者から割り当てられた IP アドレスを設定します。同一のネットワークに接続する全ての RCT-200-01 について、ユニークな IP アドレスを設定します。

●サブネットマスク

ネットワーク管理者から割り当てられたサブネットマスクを設定します。サブネットマスクはネットワークの所属を特定するため IP アドレスとあわせて設定します。

●ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを設定します。ルータを介して異なるネットワークに接続する場合に設定が必要です。



各項目の設定値については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

「4-6-3 DHCP の設定」(P.4-26) で「3:毎起動時に実行」を選択した場合は、確認のみとなり、変更することはできなくなります。

4-6-3 DHCP の設定

DHCP クライアント機能の設定を行ないます。

ネットワーク管理ツールの DHCP 機能を使用することで、各 RCT-200-01 に IP アドレスやサーバアドレス、プログラム／データファイルを自動的にダウンロードし、設定することが可能です。一般的な DHCP サーバでは、TCP/IP の設定を行ないます。



DHCP 機能により TCP/IP 設定以外の各種設定を行なうには、別途「ネットワーク管理ツール」が必要です。

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「3:DHCP」を選択します。

< ネットワーク >
 1:無線 5:DNS
 2:TCP/IP 6:SNMP
3:DHCP 7:MAC表示
 4:FIP

■DHCP ポート設定

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「3:DHCP」を選択します。

< ネットワーク >
 1:無線 5:DNS
 2:TCP/IP 6:SNMP
3:DHCP 7:MAC表示
 4:FIP

- ③ (SF) キーを押しながら読取りキーを押します。

< DHCP設定 >
1:DHCPを使わない
 2:今すぐ実行
 3:毎起動時に実行

- ④ ポートを設定します。
 - ネットワーク管理ツールの DHCP サーバを使用する場合
「1:PORTS」を「8067」に設定します。
 - 一般的な DHCP サーバを使用する場合
「1:PORTS」を「0067」に設定します。

< DHCPポート設定 >
 1:PORTS 8067
 2:PORTC 0068
 3:Parameter

■DHCP 設定

① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。

② 「3:DHCP」を選択します。

● DHCP を使わない

DHCP クライアント機能を使用しません。

● 今すぐ実行

 キーを押すと DHCP リクエストを実行します。ネットワーク管理ツールの DHCP サーバにアクセスした場合は、設定値やファイルを自動的にダウンロードすることができます。

● 毎起動時に実行

RCT-200-01 の起動時に DHCP リクエストを自動的に実行します。



「今すぐ実行」「毎起動時に実行」を選択する場合は、DHCP サーバが起動していることを確認してください。

DHCP 設定で「3:毎起動時に実行」を選択した場合は、「4-6-2 TCP/IP の設定」(P.4-25) で設定可能なパラメータを変更することはできなくなります。



ネットワーク管理ツールの DHCP による設定項目の詳細は、「オンラインマニュアルを参照してください。

4-6-4 FTP の設定

FTP クライアント機能を利用するための設定をします。「ネットワーク管理ツール」の DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「4:FTP」を選択します。

< ネットワーク >
 1:無線 5:DNS
 2:TCP/IP 6:SNMP
 3:DHCP 7:MAC表示
4:FTP

●ホストアドレス

FTP サーバの IP アドレスを指定します。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合、自動設定が可能です。

< FTP設定 >
1:ホストアドレス
 2:ユーザー名
 3:パスワード

●ユーザー名

FTP サーバへのログインユーザー名を 18 文字までの英数字で指定します。

(SF) キーを押すと英文字入力が可能です。

●パスワード

FTP サーバへのログインパスワードを 20 文字までの英数字で指定します。

(SF) キーを押すと英文字入力が可能です。

4-6-5 DNS の設定

DNS サーバのアドレスを設定します。「ネットワーク管理ツール」の DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「5:DNS」を選択します。

< ネットワーク >
 1:無線 **5:DNS**
 2:TCP/IP 6:SNMP
 3:DHCP 7:MAC表示
 4:FTP

- ③ プライマリサーバとセカンダリサーバについて、それぞれ IP アドレスを設定します。

< DNS設定 >
1:プライマリ
 2:セカンダリ

4-6-6 SNMP の設定

SNMP の各種設定をします。「ネットワーク管理ツール」の DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「6:SNMP」を選択します。

```
< ネットワーク >
1:無線          5:DNS
2:TCP/IP        6:SNMP
3:DHCP          7:MAC表示
4:FTP
```

■コミュニティ (R/Only) の設定

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「6:SNMP」を選択します。
- ③ 「1:コミュニティ (R/Only)」を選択します。

```
< SNMP設定 >
1:コミュニティ (R/Only)
2:コミュニティ (R/W)
3:Trap
```

●コミュニティ名

このコミュニティ名によって許可される動作は、「Read-Only」(読取り専用)です。GET、GET-NEXT リクエストは、このコミュニティ名の中でサポートされます。

このコミュニティ名で SET リクエストされた場合、authentication trap を送信します。コミュニティ名は最大 16 文字までの英数字で指定します。

```
< SNMP コミュニティ R/O 設定 >
1:コミュニティ名
2:マネージャ IP アドレス
```

●マネージャ IP アドレス

[コミュニティ名]で設定したコミュニティ名の、使用を許可する SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。

「000.000.000.000」の IP アドレスを設定した場合、全ての SNMP マネージャ上でこのコミュニティ名の使用を許可します。

■コミュニティ (R/W) の設定

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「6:SNMP」を選択します。
- ③ 「2:コミュニティ(R/W)」を選択します。

```
< SNMP設定 >
1:コミュニティ (R/Only)
2:コミュニティ (R/W)
3:Trap
```

●コミュニティ名

このコミュニティ名によって許可される動作は"Read-Write" (読み書き) です。GET、GET-NEXT、SET リクエストは、このコミュニティ名の中でサポートされます。コミュニティ名は最大 16 文字までの英数字で指定します。

```
<SNMP コミュニティR/W設定>
1:コミュニティ名
2:マネージャIPアドレス
```

●マネージャ IP アドレス

[コミュニティ名]で設定したコミュニティ名の、使用を許可する SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。

「000.000.000.000」の IP アドレスを設定した場合、全ての SNMP マネージャ上でこのコミュニティ名の使用を許可します。

■Trap の設定

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「6:SNMP」を選択します。
- ③ 「3:Trap」を選択します。

```
< SNMP設定 >
1:コミュニティ (R/Only)
2:コミュニティ (R/W)
3:Trap
```

●コミュニティ名

Trap 用のコミュニティ名を設定します。

コミュニティ名は最大 16 文字までの英数字で指定します。

```
<SNMP Trap 設定>
1:コミュニティ名
2:マネージャIPアドレス
3:不正アクセスTrap
```

●マネージャ IP アドレス

Trap の送信先である SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。

「000.000.000.000」の IP アドレスを設定した場合、Trap を送信しません。

●不正アクセス Trap

「1:コミュニティ (R/Only)」 「2:コミュニティ (R/W)」で設定したコミュニティ名およびマネージャ IP アドレス以外からのアクセスを認識したときに authentication trap を「送信する」または「送信しない」を設定します。

この Trap は、「2:マネージャ IP アドレス」で設定された SNMP マネージャに送信されます。

■SNMP について

- RCT-200-01 は弊社製「ネットワーク管理ツール」を使用して管理することができます。
- SNMP-PDU(Protocol Data Unit)は SNMPv1 に準拠しています。
- RCT-200-01 は次の各種 MIB グループのオブジェクトを管理しています。ただし RCT-200-01 の機能的に、次のグループでも未サポートのオブジェクトがあります。

[1.3.6.1.2.1.1]	MIB2-System
[1.3.6.1.2.1.2]	MIB2-Interfaces
[1.3.6.1.2.1.4]	MIB2-IP ※1
[1.3.6.1.2.1.5]	MIB2-ICMP ※1
[1.3.6.1.2.1.6]	MIB2-TCP
[1.3.6.1.2.1.7]	MIB2-UDP
[1.3.6.1.2.1.11]	MIB2-SNMP ※1
[1.3.6.1.4.1.12392]	Welcat Enterprise MIB

※1 RCT-200-01 の機能上、未サポートのオブジェクトがあります。
Welcat Enterprise MIB は、ASN.1 フォーマットで記述されています。
Welcat Enterprise MIB は、別売り「WebGlider II」に同梱されています。(詳細は、弊社営業担当までお問い合わせください。)

第4章 設定編

●サポートするトラップ

Cold Start	MIB がイニシャライズされた後の通信開始時に送信します。 MIB がイニシャライズされるのは(PW)キーONの時です。ただし、レジューム復帰の時 MIB はイニシャライズされません。
Warm Start	Cold Start 以外の通信開始時に送信します。※2
Link up	RCT-200-01 がアクセスポイントに同期したときに送信されます。ただし、最初にアクセスポイントと同期した時 (ColdStart、Warm Start を送信する時)は、Link up を送信しません。また、RCT-200-01 がアクセスポイントの通信圏外から圏内に入り同期したとき、あるいはローミングによって新たなアクセスポイントに同期したときに送信します。(シグナル SIGRFU_INSYNC と同じタイミング。)
Link down	通信終了時に送信します。ただし、圏外にいる時は送信しません。
Authentication	第 3 者が無効なコミュニティで RCT-200-01 にアクセスを試みたときに、システムメニューの<Trap-マネージャ IP アドレス (P.4-30)>で設定した IP アドレスにこのトラップを送信します。ただし、システムメニューの<Trap-不正アクセス Trap (P.4-31)>で「送信する」を設定した時のみ送信します。

※2 「RCT-200-01」は MIB に該当する設定 (IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等) を変更しても MIB はイニシャライズされません。よって Cold Start ではなく Warm Start が送信されます。
MIB をイニシャライズする場合はレジュームを解除して再度 (PW) キーONしてください。

4-6-7 MAC アドレスの表示

RCT-200-01 の MAC アドレス (ハードウェア固有アドレス) を表示します。
このアドレスは変更できません。

操作手順

- ① システムメニューから「2:ネットワーク」を選択します。
- ② 「7:MAC 表示」を選択します。

< ネットワーク >
1:無線 5:DNS
2:TCP/IP 6:SNMP
3:DHCP 7:MAC表示
4:FTP

< MACアドレス表示 >

[00C0740208D5]

4-7 端末ID設定メニュー

RCT-200-01 の端末 ID を設定します。端末 ID は、無線ネットワーク通信および「Welfer-X」を使ったシリアル通信の両方において各端末毎にユニークな番号を設定してください。DHCP 機能 (P.4-26) を使用している場合、自動設定が可能です。

操作手順

① システムメニューから「1: 端末 ID」を選択します。

< システム メニュー >

1: システム	4: ファイル
2: ネットワーク	5: 確認
3: 端末 ID	6: テスト

② 3桁の任意の ID 番号を設定します。

設定可能値	000~999
-------	---------

< 端末IDの設定 >

端末ID : 999

例) 端末 ID を 010 に設定する場合、②を押してから、①、②の順に押す。

新しい値を設定したら **ENT** キーを押して、変更内容を確定します。

4-8 ファイルメニュー

ファイルの実行、送受信、情報表示などファイル操作を行ないます。

4-8-1 アプリケーションの起動

システムメニューの実行中に、任意のアプリケーションを起動することができます。

操作手順

- ① システムメニューから「4:ファイル」を選択します。
- ② 「1:実行」を選択します。
- ③ 実行するアプリケーション選択すると、アプリケーションを起動します。

＜ システムメニュー ＞

1:システム	4:ファイル
2:ネットワーク	5:確認
3:端末ID	6:テスト

＜ ファイル 操作 ＞

1:実行	5:テスト
2:送信	6:情報
3:受信	7:ドライブ
4:削除	8:フォント

＜ アプリケーションの選択 ＞

F:WEB811S.OUT 200K



アプリケーションが起動される前に、ファイルシステムがファイルの再配置を行なう場合があります。

ファイルの再配置には、数秒から数分かかる場合もありますが、この間は絶対にバッテリーカートリッジを外さないでください。このときにバッテリーカートリッジを外すと、ドライブ内のすべてのデータが壊れます。

＜ ファイルの再配置中 ＞

アプリケーションの起動準備をしています。

絶対に電池を取り外さないでください。

4-8-2 ファイルの送信

■ 無線通信による送信の場合

RCT-200-01 からアクセスポイントを介してホストコンピュータへファイルを送信します。通信はFTP プロトコルを使用して行なわれます。

ファイルの送信を行なう前に、次の事項を確認してください。

- ・ 無線通信パラメータ (P.4-19) は正しく設定されているか
- ・ アクセスポイントとホストコンピュータは正しく設定、接続されているか
- ・ FTP の設定 (P.4-28) は正しく設定されているか
- ・ アクセスポイントとホストコンピュータの電源は入っているか
- ・ アクセスポイントは正常に動作しているか
- ・ ホストコンピュータでFTP サーバは起動しているか



無線ネットワークの構成に関する詳細は、アクセスポイント（弊社推奨品）付属のマニュアルをご覧ください。

操作手順

① RCT-200-01 の電源を ON にして、システムメニューから「4: ファイル」を選択します。

② 「2: 送信」を選択します。

＜ファイル 操作＞
1: 実行 5: テスト
2: 送信 6: 情報
3: 受信 7: ドライブ
4: 削除 8: フォント

③ ファイル送信方法で、「1: 無線通信」を選択します。

＜ファイル送信方法＞
1: 無線通信
2: IrDA
3: RS232C

④ 送信するファイルを選択して、ファイルを送信します。

＜送信ファイルの選択＞
S: SAMPLE01.DAT 10K
S: SAMPLE02.DAT 15K
S: SAMPLE03.DAT 25K

⑤ 送信完了を表わす画面が RCT-200-01 に表示されたら、
ⓐ キーを押して前の画面に戻ります。

＜ファイルの送信＞
S: SAMPLE01.DAT

送信完了

■シリアル通信による送信の場合

「Mini-Welfer for Windows」(P.4-58)を使用して、RCT-200-01 からホストコンピュータへファイルを送信します。

操作手順

- ① 「Welfer-X」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ② 光通信ユニット (HIF-51) を HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) でホストコンピュータと接続 (P.6-1) した後、光通信ユニットの電源を ON にします。RCT-200-01 とホストコンピュータを直接接続する場合は、PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続します。
- ③ ホストコンピュータの「Mini-Welfer for Windows」を起動します。
- ④ RCT-200-01 の電源を ON にして、システムメニューから「4: ファイル」を選択します。
- ⑤ 「2: 送信」を選択します。
- ⑥ ファイル送信方法を選択します。光通信ユニットを使用して、赤外線通信を行なう場合は、「2: IrDA」を選択。PC 接続用ケーブルで RCT-200-01 とホストコンピュータを直接接続している場合は、「3: RS232C」を選択します。
- ⑦ 送信するファイルを選択して、ファイルを送信します。
- ⑧ 送信完了を表わす画面が RCT-200-01 に表示されたら、
 - キーを押して前の画面に戻ります。

＜ ファイル 操作 ＞
1: 実行 5: テスト
2: 送信 6: 情報
3: 受信 7: ドライブ
4: 削除 8: フォント

＜ ファイル送信方法 ＞
1: 無線通信
2: IrDA
3: RS232C

＜ 送信ファイルの選択 ＞
S: SAMPLE01. DAT 10K
S: SAMPLE02. DAT 15K
S: SAMPLE03. DAT 25K

＜ ファイルの送信 ＞

S: SAMPLE01. DAT

送信完了

4-8-3 ファイルの受信

■ 無線通信による受信の場合

ホストコンピュータから送信するファイルをアクセスポイントを介して RCT-200-01 で受信します。通信はFTP プロトコルを使用して行なわれます。

ファイルの受信を行なう前に、次の事項を確認してください。

- ・ 無線通信パラメータ (P.4-19) は正しく設定されているか
- ・ アクセスポイントとホストコンピュータは正しく設定、接続されているか
- ・ FTP の設定 (P.4-28) は正しく設定されているか
- ・ アクセスポイントとホストコンピュータの電源は入っているか
- ・ アクセスポイントは正常に動作しているか
- ・ ホストコンピュータで FTP サーバは起動しているか



無線ネットワークの構成に関する詳細は、アクセスポイント（弊社推奨品）付属のマニュアルをご覧ください。

操作手順

- ① RCT-200-01 の電源を ON にして、システムメニューから「4: ファイル」を選択します。

- ② 「3: 受信」を選択します。

< ファイル 操作 >

1: 実行	5: テスト
2: 送信	6: 情報
3: 受信	7: ドライブ
4: 削除	8: フォント

- ③ ファイル受信方法で、「1: 無線通信」を選択します。

< ファイル受信方法 >

1: 無線通信
2: IrDA
3: RS232C

- ④ ファイルの格納先を選択すると、自動的に FTP サーバより、ファイルリストを取得します。

< ファイル格納先の選択 >

1: ドライブ S (データ)
2: ドライブ F (グラフィクス)

- ⑤ 受信するファイルを選択し、**(ENT)** キーを押してダウンロードを開始します。
末尾に「<DIR>」が付いているものはディレクトリです。ディレクトリを選択すると、そのディレクトリに移動して新たにファイルリストを取得します。

< 受信ファイルの選択 >

.. <DIR>
sample.dat
sample2.dat
sample3.dat

⑥ (Sドライブダウンロード時のみ)

ダウンロードを続ける場合、「1:はい」を選択して⑤へ。

＜ファイルの受信＞
sample.dat
受信完了しました。
さらに受信しますか？
1:はい 2:いいえ

⑦ 受信完了を表わす画面が RCT-200-01 に表示されたら、

③ キーを押して前の画面に戻ります。

＜ファイルの受信＞
受信完了しました。



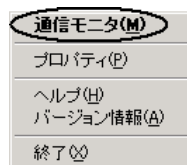
ロングファイルネーム (8.3 形式以外)、もしくは日本語 (全角文字、カナ文字) のファイルネームを持つファイルは受信できません。これらのファイルはファイルリストに表示されません。

■ シリアル通信による受信の場合

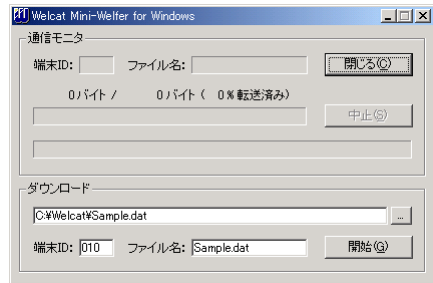
「Welfer-X」(P.4-58)を使用して、ホストコンピュータから送信するファイルを RCT-200-01 で受信します。

操作手順

- ① 「Welfer-X」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ② 光通信ユニット(HIF-51)をHIF-51 PC 接続用ケーブル(WRS-AXC003A)でホストコンピュータと接続(P.6-1)した後、光通信ユニットの電源を ON にします。
RCT-200-01 とホストコンピュータを直接接続する場合は、PC 接続用ケーブル(HOP-C031)で接続します。
- ③ ホストコンピュータの「Mini-Welfer for Windows」を起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。アイコンを右クリックして表示されるメニューから[通信モニタ]を選択します。
- ④ [...]ボタンを押して、ファイルを選択します。



- ⑤ 端末 ID を入力します。



光通信ユニット (HIF-51) をデジチェーン接続で使用しており、1 つのファイルを複数の端末に一度に送信 (同報送信) (P.6-6) する場合は、端末 ID に**を入力します。

- ⑥ RCT-200-01 の電源を ON にして、システムメニューから「4: ファイル」を選択します。
- ⑦ 「3: 受信」を選択します。

< ファイル 操作 >
 1: 実行 5: テスト
 2: 送信 6: 情報
 3: 受信 7: ドライブ
 4: 削除 8: フォント

- ⑧ ファイル受信方法を選択します。光通信ユニットを使用して、赤外線通信を行なう場合は、「2: IrDA」を選択。PC 接続用ケーブルで RCT-200-01 とホストコンピュータを直接接続している場合は「3: RS232C」を選択します。

< ファイル受信方法 >
 1: 無線通信
 2: IrDA
 3: RS232C

- ⑨ ファイルの格納先を選択すると、受信待ちの状態になります。
- ⑩ ホストコンピュータ側で表示されている、前ページ④の画面の [開始] ボタンを押して、ダウンロードを開始します。

< ファイル格納先の選択 >
 1: ドライブ S (デフォルト)
 2: ドライブ F (フロッピーディスク)

- ⑪ 受信完了を表わす画面が RCT-200-01 に表示されたら、
 ⓐ キーを押して前の画面に戻ります。

< ファイルの受信 >
 0001000 / 0001000
 完了しました



光通信ユニット（HIF-51）を使用してファイルの送受信を行なう場合、通信中に RCT-200-01 を光通信ユニットから外さないでください。



「Mini-Welfer for Windows」の通信設定は、ソフトウェア付属のマニュアルをご覧ください。

4-8-4 ファイルの削除

不要なファイルを削除します。

操作手順

① システムメニューから「4:ファイル」を選択します。

② 「4:削除」を選択します。

＜ ファイル 操作 ＞

1:実行	5:テスト
2:送信	6:情報
3:受信	7:ドライブ
4:削除	8:フォント

③ 削除するファイルを選択します。

④ 「1:削除」を選択して、ファイルを削除します。中止する場合は「2:キャンセル」を選択します。

＜ 削除ファイルの選択 ＞

F: SAMPLE01.DAT 10K

4-8-5 ファイルのテスト

格納されているファイルが壊れていないかどうかのテストを行ないます。メニューを選択すると、ドライブ S に格納されているファイルに対して、自動的にテストが行なわれます。

操作手順

- ① システムメニューから「4:ファイル」を選択します。
- ② 「5:テスト」を選択して、ファイルのテストを開始します。
- ③ テストが完了すると、右のメッセージ画面 1 を表示します。
ファイルが壊れていた場合は、テストの途中でメッセージ画面 2 のようなメッセージを表示します。
壊れたファイルをそのまま使用すると、アプリケーションの暴走を招く恐れがあります。これが重要なファイルでないのなら、**ENT** キーを押してファイルを削除してください。

壊れているファイルは、削除するかホストコンピュータへ送信して、内容を復旧するなどの措置をとってください。

< ファイル 操作 >

1:実行

2:送信

3:受信

4:削除

5:テスト

6:情報

7:ドライブ

8:フォント

< ファイルのテスト >

テスト 完了

ファイルは全て正常です

メッセージ画面 1

< ファイルのテスト >

S:FILE2. DAT

ファイルが壊れています!

ⓧ:無視

ⓧ:削除

⓪:放置

メッセージ画面 2

画面	操作キー	処理
ⓧ:無視	読取キー	このファイルは(内容が異常であっても)正常なファイルとして、テスト処理を続行します。再度、テスト行なってもメッセージ画面 2 は表示されません。
⓪:放置	⓪ キー	何も処理をしません。OS は次の起動時やファイルテスト時に再度ユーザに選択を求めます。
ⓧ:削除	ⓧ キー	ファイルを削除します。エラー表示されたファイルが重要なファイルでない場合は、可能な限り削除をおすすめします。

4-8-6 ファイル情報

ファイルの情報を表示します。ここで取得できる情報は次のとおりです。

- ファイルの名前
- ファイルの種類
- ファイルのサイズ
- ファイルの最終更新日時(年月日時分秒)

操作手順

① システムメニューから「4:ファイル」を選択します。

② 「6:情報」を選択します。

< ファイル 操作 >
1:実行 5:テスト
2:送信 6:情報
3:受信 7:トライブ
4:削除 8:フォント

③ ファイルを選択します。

< ファイルの選択 >
S: SAMPLE01. DAT 10K
S: SAMPLE02. DAT 15K
S: SAMPLE03. DAT 20K

④ ファイルの情報を表示します。Ⓢキーを押すと、1つ前の画面に戻ります。

S: SAMPLE01. DATの情報
種類: データ
サイズ: 10240 Byte
日付: 2002/04/01
04:15:24

4-8-7 ドライブ情報

ドライブの情報を表示します。ここで取得できる情報は次のとおりです。

- ドライブの名前
- ドライブの全容量
- ドライブの空き容量
- 現在格納されているファイル数と残りのファイル作成可能な数

操作手順

- ① システムメニューから「4:ファイル」を選択します。
- ② 「7:ドライブ」を選択します。

＜ファイル 操作＞
 1:実行 5:テスト
 2:送信 6:情報
 3:受信 7:ドライブ
 4:削除 8:フォント

- ③ 情報を表示するドライブを選択します。

＜ドライブの選択＞
 1:ドライブF
 2:ドライブS

- ④ ドライブの情報を表示します。Ⓢ キーを押すと、1つ前の画面に戻ります。

＜ドライブ情報＞
 ドライブF
 全容量: 3276800byte
 空容量: 3276800byte
 ファイル数: 0個 残り: 50

4-8-8 フォントの変更

フォントファイルがインストールされている場合、アプリケーションで使用するフォントを変更することができます。



システムメニューで使用するフォントは変更できません。デフォルトゴシック（12ドット表示）のみ使用できます。

操作手順

- ① システムメニューから「4:ファイル」を選択します。
- ② 「8:フォント」を選択します。
- ③ 最下行には、現在設定されているフォント名を表示します。
「1:デフォルトゴシック」はシステムメニューで使用されているフォントです。
- ④ フォントを変更する場合は、「2:追加フォント」を選択して、フォントファイルの一覧を表示します。例えば、RCT-200-01 用機種別ライブラリ(HAP-LIB-53 別売り)に付属している 16ドットゴシックフォントをロードすると、16ドットのフォント表示が可能です。

< ファイル 操作 >

1:実行	5:テスト
2:送信	6:情報
3:受信	7:ドライブ
4:削除	8:フォント

< フォントの変更 >

1:デフォルトゴシック
2:追加フォント

[デフォルトゴシック]

追加フォントを使用する場合、アプリケーションがそのフォントに対応している必要があります。アプリケーションが対応していないフォントを選択した場合、アプリケーションを実行できなかったり、画面表示が乱れたりすることがあります。

フォントファイルの拡張子は「FNV」です。



出荷時の状態では、フォントファイル（～.FNV）は格納されていません。RCT-200-01 用機種別ライブラリ（HAP-LIB-53 別売り）に付属している 16 ドットゴシックフォントなどを別途ドライブ F にダウンロードした上で、フォントの変更を行ってください。

4-9 確認メニュー

RCT-200-01 の情報確認を行ないます。

操作手順

- ① システムメニューから「5:確認」を選択します。

< システムメニュー >

1:システム 4:ファイル
2:ネットワーク 5:確認
3:端末ID 6:テスト

4-9-1 電池電圧

RCT-200-01 に装着されているバッテリーカートリッジの電圧を表示します。

操作手順

- ① システムメニューから「5:確認」を選択します。

< 確認 >

1:電池電圧
2:USB接続
3:時計

- ② 「1:電池電圧」を選択します。

- ③ バッテリーカートリッジの電圧をインジケータ表示します。ⓐ
キーを押すと、1つ前の画面に戻ります。

< 電池電圧確認 >

L  H



この表示は、正確な電池残量ではありません。電池残量の目安として使用してください。

4-9-2 OS バージョン

RCT-200-01 に搭載されているシステムプログラム(OS)のバージョン情報を表示します。

操作手順

- ① システムメニューから「5:確認」を選択します。
- ② 「2:OS バージョン」を選択します。

＜ 確認 ＞
1:電池電圧
2:OSバージョン
3:時計

- ③ バージョンを表示します。ⓐ キーを押すと、1 つ前の画面に戻ります。

＜ バージョンの確認 ＞

OS : V1.00

4-9-3 時計

「4-5-3 時計の設定」(P.4-9) で設定した時刻を表示します。

操作手順

- ① システムメニューから「3:確認」を選択します。
- ② 「3:時計」を選択します。

＜ 確認 ＞
1:電池電圧
2:OSバージョン
3:時計

- ③ 現在の時刻を表示します。

＜ ただいまの時刻 ＞

2003 / 07 / 01
02 : 35 : 47

4-10 テストメニュー

RCT-200-01 の基本的な機能についてテストを行ないます。

操作手順

- ① システムメニューから「6:テスト」を選択します。

< システムメニュー >

1:システム	4:ファイル
2:ネットワーク	5:確認
3:端末ID	6:テスト

4-10-1 無線のテスト

無線通信に関するテスト及び ping コマンドを実行し IP ネットワークの疎通をテストします。

■条件設定

ping コマンドの実行条件を設定します。無線テストでは、ping を行いながらテストします。

操作手順

- ① システムメニューから「6:テスト」を選択します。

- ② 「1:RF 通信」を選択します。

< テスト >

1:RF通信	5:キー入力
2:シリアル通信	6:ICタグ
3:バーコード	
4:画面表示	

- ③ 「1:条件設定」を選択します。

< 無線通信のテスト >

1:条件設定
2:無線テスト
3:ping実行

■条件設定

●ホストアドレス

通信を確認する相手機器の IP アドレスを指定します。

●パケットサイズ（デフォルト 32 バイト）

送信するデータパケットのサイズ(バイト)を選択します。

設定可能値	32、64、128、256、512、1024
-------	------------------------

●タイムアウト時間（デフォルト 1 秒）

タイムアウト時間を 1 秒単位で設定します。

設定可能値	1～255 秒
-------	---------

< ping条件設定 >

1:ホストアドレス
2:パケットサイズ
3:タイムアウト時間
4:試行回数

● 試行回数（デフォルト 4 回）

ping の送信回数を設定します。

設定可能値	0~255 回
-------	---------

0 を指定すると、Ⓢ キーが押されるまで ping の送信を実行します。

■ 無線テスト

ping コマンドを実行して無線テストを実行します。条件設定で設定したホスト IP アドレスに ping コマンドを送信し続けます。表示される内容は、ping コマンドの結果、同期しているアクセスポイントの MAC アドレス、受信した電波の強さ(ASL)、通信品質(LnkQ)、使用チャンネル、送信速度です。

操作手順

① システムメニューから「6:テスト」を選択します。

② 「1:RF 通信」を選択します。

③ 「2:無線テスト」を選択します。

④ 無線通信テストの画面となり、ping 通信が開始されます。

1 行目は ping コマンドの結果を表示します。

2 行目は無線通信したアクセスポイントの MAC アドレスを表示します。

3 行目の LnkQ インジケータはアクセスポイントとの通信品質を表示します。

4 行目は同期しているチャンネル、送信速度を表示します。

5 行目の ASL インジケータはアクセスポイントから受信した電波の強さを表示します。中止する場合は Ⓢ キーを押してください。

```
< テスト >
1: RF通信      5: キー入力
2: リアル通信 6: ICタグ
3: パーコード
4: 画面表示
```

```
< 無線のテスト >
1: 条件設定
2: 無線テスト
3: ping実行
4: APの検索
```

```
32B time<30ms
AP_MAC[001122334455]
LnkQ  L [ ] H
CH:01  SPD: 1Mbps
ASL  L [ ] H
```



充分安定した通信パフォーマンスを得るためには、LnkQ のインジケータが 4 以上であることを推奨します。



3 行目の LnkQ、5 行目の ASL インジケータは電波の強さを正確に表示したものではありません。電波状態の目安としてください。

■ping の実行

設定条件に従って ping コマンドを実行します。

操作手順

- ① システムメニューから「6:テスト」を選択します。
- ② 「1:RF 通信」を選択します。
- ③ 「3:ping 実行」を選択します。

< 無線のテスト >
 1:条件設定
 2:無線テスト
3:ping実行
 4:APの検索

- ・パケットの送受信毎に、応答を受け取るまでのターンアラウンドタイムを表示します。
- ・時間内に応答が返送されなかった場合は、"Timeout"が表示されます。
- ・試行回数に 0 が指定されている場合は、ping の実行を繰り返します。中止する場合は、Ⓢ キーを押してください。

< pingの実行 >
 32B time<Timeout
 32B time<40ms
 32B time<40ms
 32B time<50ms

■アクセスポイントの検索

利用できるアクセスポイントの検索を開始します。「■SSID の設定」(P.4-20)で設定されたSSID と同一 SSID 設定であるアクセスポイントを検索します。"ANY"設定 (または設定文字なし) であれば SSID に関係なく接続可能なアクセスポイントを検索します。

検索結果はアクセスポイントの MAC アドレスと同期しているチャンネルが通信品質の良い順で表示されます。アクセスポイントの表示可能台数は最大 35 台です。



アクセスポイントの設定によっては、セキュリティ上"SSID"情報を送信しない場合があります。この場合はアクセスポイントを見つけだすことができません。

操作手順

① システムメニューから「6:テスト」を選択します。

② 「1:RF 通信」を選択します。

< テスト >
 1:RF通信 5:キー入力
 2:リアル通信 6:ICタグ
 3:バーコード
 4:画面表示

③ 「4:AP 検索」を選択します。

< 無線のテスト >
 1:条件設定
 2:無線テスト
 3:ping実行
 4:APの検索

④ アクセスポイントの検索を開始します。3 行目から 4 行目には「**■**SSID の設定」(P.4-20)で設定された SSID が表示され、その SSID 設定のアクセスポイントを検索します。"ANY"が表示された場合は"ANY"設定(または設定文字なし)として SSID に関係なく接続可能なアクセスポイントを検索します。

< AP の検索 >
 SSIDを
 ANY
 設定で検索中です。

⑤ アクセスポイントの検索結果を表示します。通信品質の良い順で、アクセスポイントの MAC アドレスおよび同期チャンネルを表示します。この検索結果の中の一つを選択すると、そのアクセスポイントの SSID を得ることや、そのアクセスポイントとのみ無線テストを行うことができます。

< AP の検索結果 >
 00A0F850D7D3 01
 00A0F850D7F4 06
 00A0F850D7CE 11

Ⓒ キーを押すと③に戻ります。

⑥ 選択されたアクセスポイントの SSID を表示します(左図では SSID「80011」)。

「1:RF テスト」を選択するとこのアクセスポイントとのみ無線テストを開始します。ただし事前に「**■**条件設定」(P.4-47)を設定する必要があります。

「2:設定」を選択すると、ここで表示された文字列で SSID を設定します。

< AP の情報 >
 [00A0F850D7D3]のSSID
 80011
 1:RFテスト 2:設定

4-10-2 シリアル通信のテスト

RCT-200-01 のシリアル通信のテストを行ないます。

テストの実行には、データ通信の準備が必要です。「1-4 データ通信の準備」(P.1-9)または、「4-5-2 シリアル通信の設定」(P.4-8)をご覧ください。

操作手順

- ① ホストコンピュータと RCT-200-01 を PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続します。
- ② ホストコンピュータ側で通信ソフト (ハイパーターミナル等) を起動します。通信ソフトの設定は、RCT-200-01 の通信設定と同じ設定にします。
- ③ システムメニューから「6:テスト」を選択します。
- ④ 「2:シリアル通信」を選択します。

シリアル通信では、ループバックテストを行ないます。ホストコンピュータのキーボードで任意のキーを入力すると、RCT-200-01 の画面に同じ文字を表示します。このとき、通信ソフト側で“ローカルエコー”の設定がされていると、キーボードで入力したキーがホストコンピュータ上でも確認できます。また、RCT-200-01 と直接 PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続している場合は、ホストコンピュータの画面に同じ文字を 2 つずつ表示します。

- ⑤ **Ⓢ** キーを押すと、テスト前の画面に戻ります。

< テスト >
 1:無線 5:キー入力
2:シリアル通信 6:ICカード
 3:ハートコード
 4:画面表示

< シリアル通信のテスト >
 abcdefg

●通信ソフトの画面例

>aabbccddeeffgg

4-10-3 バーコード読取のテスト

バーコードの読取りテストを行ないます。サンプルのバーコードは、「サンプルバーコード」(付録 B-2)に掲載されています。

操作手順

- ① システムメニューから「6:テスト」を選択します。
- ② 「3:バーコード」を選択します。

< テスト >
1:無線 5:キー入力
2:シリアル通信 6:ICタグ
3:バーコード
4:画面表示

- ③ 読取キーを押してバーコードを読取ります。読取った結果を、右の画面の様に表示します。

読取ったバーコードを、2行目に表示します。最下行には読取ったバーコードの種類と桁数を表示します。読取キーを押し続けると、約 1 秒後に連続読取モードになります。読取キーを放すまでの間、バーコードの読取りを続け、画面右下に読取り成功率を表示します。トリガモードとパワーセーブモードの設定は影響しません。

< バ-コード テスト >
4994121104579

JAN13 13桁 100%

4-10-4 画面表示のテスト

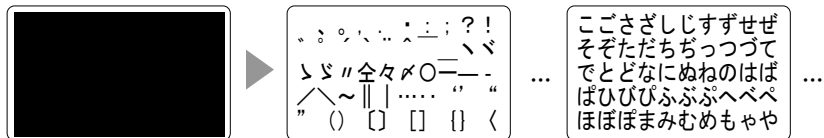
画面表示のテストを行ないます。

操作手順

- ① 「システムメニューから「6:テスト」を選択します。
- ② 「4:画面表示」を選択します。

< テスト >
1:無線 5:キー入力
2:シリアル通信 6:ICタグ
3:バーコード
4:画面表示

- ③ バックライトが点灯して、画面全体が塗りつぶされます。何かキーを押すと次々と文字を表示します。読取キーを押すと、表示されている画面のままテストを一時停止し、もう一度押すと再開します。◎キーを押すと、テストを中断してテスト前の画面に戻ります。



4-10-5 キー入力のテスト

キー入力のテストを行ないます。同時に、ブザー、バイブレーション、LED の点灯テストを行ないます。

操作手順

- ① システムメニューから「6:テスト」を選択します。
- ② 「5:キー入力」を選択します。

<テスト>
 1:無線
 2:シリアル通信
 3:バーコード
 4:画面表示
 5:キー入力
 6:ICタグ

- ③ テスト画面になります。何かキーを押すと、押したキーのマークを画面に表示します。(SF)キーを押しながら何かキーを押すと、マークを反転表示します。また、どのキーを押してもブザーとバイブレーションが強制的にテストされます。
 テスト中は(PW)を押しても電源を切ることはできません。(C)を押すと、テスト前の画面に戻ります。
 入力されるキーに応じて、LED の点灯テストも行ないます。それぞれのキー入力に対するLED 表示については、次の表をご覧ください。

キー	読取 LED 発光色	警告 LED 発光色
(PW) (BS) (SF) (ENT) 読取キー	オレンジ	赤
①～⑨ (・)	緑	---
(F1)～(F8)	赤	---

4-10-6 IC タグの読取りテスト

IC タグ読取りのテストを行います。タグの種類とメモリ内容を確認できます。

■ タグの種類の確認

操作手順

① システムメニューから「6:テスト」を選択します。

② 「6:IC タグ」を選択します。

```
< テスト >
1:無線          5:キー入力
2:シリアル通信 6:ICタグ
3:バーコード
4:画面表示
```

③ 「1:種別」を選択します。

```
< ICタグ テスト >
1:種別
2:タグ
```

④ IC タグをかざすと各タグの種類が表示されます。5 種類以上取得した場合は、4 種類まで表示されます。

```
< タグ 種別 >
Tag it HF-I
I-CODE SLI
my-d
I-CODE 1
```

■ タグメモリ内容の確認

操作手順

① システムメニューから「6:テスト」を選択します。

② 「6:IC タグ」を選択します。

```
< テスト >
1:無線          5:キー入力
2:シリアル通信 6:ICタグ
3:バーコード
4:画面表示
```

③ 「2:タグ」を選択します。

```
< ICタグ テスト >
1:種別
2:タグ
```

④ タグをかざすとメモリの内容が 16 進数で表示されます。

◀F5 ▶ F6 ▶ F7 ▶ F8▶ キーでスクロールします。

```
< ICタグ タグ >
000:1234567890123456
008:1234567890123456
010:1234567890123456
018:1234567890123456
```

4-11 その他の機能

4-11-1 低電圧警告

装着されているバッテリーカートリッジの残量が少なくなってくると、システムメニューでは次の操作が行えなくなります。

- ・アプリケーションの起動
- ・ファイルの送受信と削除、テスト
- ・時計の設定

バッテリーカートリッジの残量が少なくなっているときに上記の操作を行なうと、右のような画面を表示します。
このとき、画面 2 行目に[ローバッテリー]と表示して、“ピー、ピー、ピー”と警告音を 3 回鳴らします。

＜ ファイル 操作 ＞
[ローバッテリー]
電池が残り少ないため
指定された操作を行う
ことができません。

バッテリーカートリッジの残量が少なくなっても、上記以外のシステムメニューの操作は行なえます。
さらに、残量が規定値を下回ったと判断したとき、“ピピピピピピ…”と警告音を鳴らしながら、右の画面のメッセージを 5 秒間表示した後、自動的に電源が切れます。

[ローバッテリー]

充電してください！

4-11-2 オートパワーオフ

システムメニューでは、約 10 分間一切のキー操作が行なわれないと自動的に電源が切れます。



アプリケーションにもこの機能が搭載されている場合があります。詳しくはそれぞれのアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

4-12 RCT-200-01の初期化

RCT-200-01 を使用中に、何らかの原因でシステムの記憶領域の内容に障害が発生し、正常に動作しない場合があります。システムメニューでは、それらのほとんどの異常を自動的に修正しますが、重大な障害は正しく修正できないことがあります。

このような場合は、次の方法で内部記憶を消去し、出荷時の状態に戻すことができます。



システムメニューの出荷時設定については、「付録 A システムメニュー出荷時設定」（付録 A-2）を参照してください。



これらの操作は、RCT-200-01 に保存されているシステムメニューの設定またはデータやプログラムを消去します。十分注意してから実行してください。また、これらの操作を行なう場合は、必ずレジュームモードを OFF にして行ってください。

■ システムメニューの初期化

操作手順

- ① RCT-200-01 の電源を OFF にします。
- ② 読取キー、**(SF)** キー、**(C)** キーの 3 つのキーを同時に押しながら **(PW)** キーを押すと、システムメニューの内容が初期化されて、システムメニューを再起動します。

この操作によって、システムメニュー中の設定の内容を全て初期化します。保存されているファイルが消去されることはありません。

■すべての初期化



この操作では、システムプログラムを除くすべてのファイル、アプリケーションが削除されます。**RCT-200-01 ご購入時に搭載されている、「RCT-200 用ブラウザ」も削除されます。**初期化の前にバックアップを取るなどして、十分注意して実行してください。

すべての初期化を行なう前に、必ず十分に充電されたバッテリーカートリッジを用意してください。また、途中でバッテリーカートリッジを取り外さないでください。すべての初期化には数分から 10 分程度かかります。この間は一切のキー入力はできません。途中でバッテリーカートリッジが消耗したり、バッテリーカートリッジを取り外すと初期化が完全に行なわれずに RCT-200-01 内のデータ領域に障害が発生することがあります。

操作手順

- ① RCT-200-01 の電源を OFF にします。
- ② (SF) キー、(C) キー、(O) キーの 3 つのキーを同時に押しながら (PW) キーを押すと、確認メッセージを表示した後に RCT-200-01 を初期化します。

■保守に際してのご注意



RCT-200-01 の修理・点検の際には、すべての初期化を行ないますので、あらかじめご了承ください。「RCT-200 用ブラウザ」については再インストールしてご返却致しますが、お客様で作成されたファイルは再インストールできませんので、ご注意ください。お客様で作成されたファイルはバックアップを取っておくことをおすすめします。

4-13 「Mini-Welfer for Windows」の通信設定

4-13-1 「Mini-Welfer for Windows」の基本的な設定

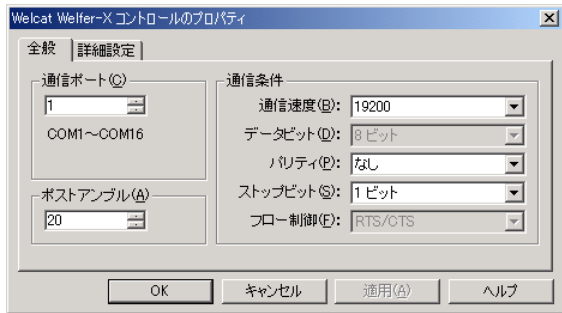
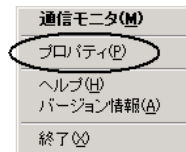


ファイルの送受信を行なうには、ホストコンピュータ側に「Mini-Welfer for Windows」(別売り)をインストールしてください。
「Mini-Welfer for Windows」は、「Welfer-X」に同梱されているファイル転送ユーティリティです。

「Mini-Welfer for Windows」を起動すると、タスクトレイにアイコンが表示され受信待ち状態になります。



「Mini-Welfer for Windows」の基本設定は、タスクトレイのアイコンを右クリックして表示されるコンテキストメニューから行ないます。アイコンを右クリックして[プロパティ]を選択すると通信に関する設定を行なうダイアログを表示します。



プログラムインストール後の既定値は、次の様に設定されています。

通信ポート	COM1
ポートアンブル	20
通信速度	19200
データビット	8ビット
パリティ	なし
ストップビット	1ビット
フロー制御	RTS/CTS

4-13-2 RCT-200-01 の通信設定

「Welfer-X」を使用したファイルの送受信では、RCT-200-01 の通信設定 (P.4-8) を次のように設定してください。

ボーレート	2400bps～115200bps (Welfer-X と同じ設定)
データ長	8ビット
ストップビット長	1ビットまたは2ビット (Welfer-X と同じ設定)
パリティ	なし、奇数、偶数 (Welfer-X と同じ設定)
ポート	任意

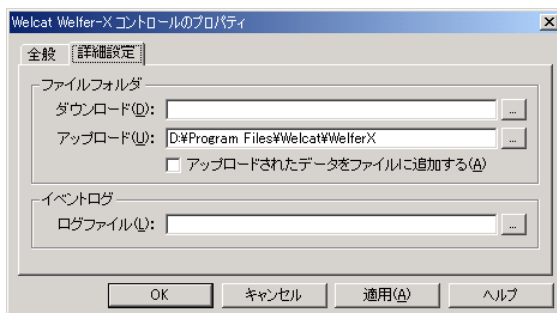


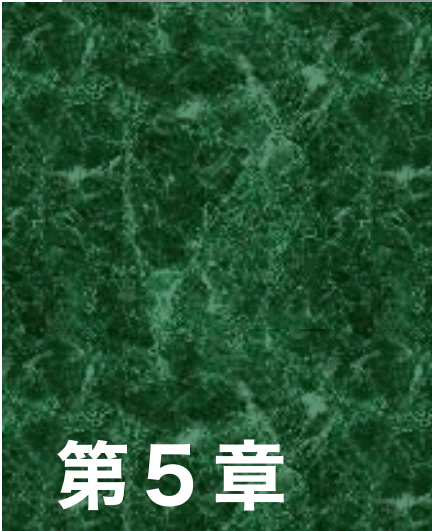
RCT-200-01 の通信設定は、必ずホストコンピュータにインストールされている「Welfer-X」の通信設定と同じ条件に設定してください。

4-13-3 RCT-200-01 から受信（アップロード）したファイルの保存場所

アップロードしたファイルの保管場所を設定します。

プログラムをインストールした直後のファイルの保存先は、カレントディレクトリ (WelferX.exe のあるディレクトリ) に設定されています。任意のディレクトリを保存先に指定する場合は、プロパティの[詳細設定]タブをクリックします。ファイルフォルダのアップロードの[...]ボタンを押して、保存先のディレクトリを指定します。ファイル名は指定できません。



A large rectangular area with a dark green, marbled texture, resembling stone or organic material. It is positioned in the upper right quadrant of the page.

第5章

FAQ 編

A thin horizontal bar with the same dark green, marbled texture as the larger block above, spanning the width of the page below the FAQ 編 header.

5-1 FAQ（よくある質問と回答）

ここでは、よくある質問やトラブルおよびトラブルを解決するために確認する必要のある項目と本マニュアルの参照ページを記載します。ここで解決できないトラブルは本マニュアル「FAX お問い合わせ票/修理依頼票」に必要事項をご記入の上、弊社までご連絡ください。

Q：電源が入らない

- バッテリーカートリッジは正しく装着されていますか?---- (P.2-12)
- バッテリーカートリッジは充電されていますか?---- (P.2-11)
- バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか?---- (P.2-11)
- 本体の電極は汚れていませんか?---- (P. 2-13)

Q：画面に何も表示されない

- バッテリーカートリッジは正しく装着されていますか?---- (P.2-12)
- バッテリーカートリッジは充電されていますか?---- (P.2-11)
- バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか?---- (P.2-11)
- 本体の電極は汚れていませんか?---- (P. 2-13)

＜上記の項目を確認しても解決できない場合＞

次の方法で、システムメニューを起動してみてください。

「バッテリーカートリッジを取り外します」→「10 秒待ちます」→「バッテリーカートリッジを装着します」
→「読取キーを押しながら (PW) を押します」

上記の方法でも問題が解決されない場合は、電源を OFF にして、(SF) + (C) + 読取キーを押しながら (PW) キーを押して、システムメニューの初期化を行なってください。---- (P.4-56)

Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった

- バッテリーカートリッジは充電されていますか?---- (P.2-11)
- オートパワーオフ機能が起動していませんか?---- (P.4-55)

Q：充電できない

- バッテリーカートリッジは充電器に正しく装着されていますか?
「バッテリーカートリッジ HBC-51/54 専用充電器 HQC-51/54」付属の取扱説明書をご覧ください。
- バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか?---- (P.2-11)

Q：システムメニューが起動しない

■自動実行に“アプリケーション”が設定されていませんか？----(P.4-7)
システムメニューの「1:システム設定」>「1:自動実行」で設定してください。

■強制的にシステムメニューを起動する場合は、読取キーを押しながら(PW)キーを押してください。----(P.4-5)

Q：電源を ON にしたときに起動するアプリケーションを変更したい

システムメニューの「1:システム設定」>「1:自動実行」で設定してください。----(P.4-7)

Q：別のアプリケーションを起動するには

システムメニューの「4:ファイル」>「1:実行」で、起動したいアプリケーションを選択してください。----(P.4-34)

Q：バーコードが上手く読取れない

■アプリケーションの設定に沿ったバーコードを読取っていますか？
アプリケーションの設定によっては、特定の種類のバーコードが読取り禁止になっている場合があります。

■正反射が起こってませんか？----(P.2-8)

■読取距離は正しいですか？----(P.2-7)

■読取口のフィルタは汚れていませんか？----(P.1-4)

読取口のフィルタが汚れていると正しくバーコードを読取らないことがあります。乾いた柔らかい布でフィルタを拭いてください。

Q：ドライブの空き容量を確認するには

システムメニューの「4:ファイル」>「7:ドライブ」で確認します。----(P.4-43)

Q：無線でデータ通信ができない

■イーサネット LAN にアクセスポイントが接続されていますか？

- ・ アクセスポイントによっては LAN ケーブルが抜けていたり LINK が確立していないと無線通信をしません。

< 警告 LED が点灯する場合 >

■SSID はアクセスポイントと同じ設定ですか？---- (P.4-20)

SSID をアクセスポイントと合わせてください。

端末が"ANY"(空白)設定の場合、アクセスポイントの機能で接続できない場合があります。アクセスポイントのマニュアルを参照してください。

■認証設定は合っていますか？---- (P.4-22)

アクセスポイントの認証方式とあわせてください。

「SHARED」の場合、WEP 設定を確認してください。

■Preamble 設定を確認してください。---- (P.4-24)

端末で「SHORT」になっていて、アクセスポイントが「LONG」設定または「SHORT」未対応ではありませんか？

< 警告 LED が消灯または点滅する場合 >

■WEP の設定は合っていますか？

WEP 方式は合っていますか？(無効、40bit、128bit)

WEP の TxKEY_ID と WEP キーはあっていますか？(P.4-22 参照)

■同じチャンネル、または干渉するチャンネルで設定されたアクセスポイントが存在していませんか？

干渉しないチャンネル設定された場合、1 つのエリアで使用できるアクセスポイントの最大数は 4 台です。

■障害の原因となる電波が発生していませんか？

電子レンジや他の WLAN など障害要因となる機器がないか確認してください。

またコンピュータがノイズ発生源となることもありますので、アクセスポイントおよび端末から 1m 以上離す様にしてください。

■IP アドレス等 TCP/IP の設定に問題ありませんか？---- (P.4-25)

ping 等でコンピュータに接続できるか確認してください。

Q：IrDA または RS-232C でデータ通信ができない

■各機器は正しく接続されていますか？

- PC と RCT-200-01 を接続----(P.1-5)

PC 接続用ケーブル(HOP-C031)を使用

- PC と光通信ユニット(HIF-51)を接続----(P.1-5)

HIF-51 PC 接続用ケーブル(WRS-AXC003A)を使用

- 光通信ユニット(HIF-51)をデジターチェーン接続----(P.6-6)

デジターチェーン接続用ケーブル(STP-C001A)を使用

シリアル通信設定は正しく行なわれていますか？----(P.4-8)

■光通信ユニットとコンピュータは正しく接続されていますか？

- デジターチェーン接続時に、光通信ユニット(HIF-51)の DIP スイッチは正しく設定されていますか？----(P.6-6)

- RCT-200-01 や光通信ユニット(HIF-51)の IrDA インターフェースは汚れていませんか？----(P.1-2)

IrDA インターフェースが汚れていると正しく IrDA 通信が行なわれないことがあります。乾いた柔らかい布でインターフェースを拭いてください。

Q：ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された

- ドライブ S の空き領域が少ない場合などに表示されます。----(P.3-3、4-40)

ドライブ F にファイルを受信するときは、RCT-200-01 は、ドライブ S 上に受信するファイルと同じだけの作業領域を必要とします。ドライブ S のファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトしました」と表示された

送信または受信待ち状態などのままで一定時間が経過すると表示されます。

- ホストコンピュータの通信ソフトは起動していますか?----(P.4-58)
- 通信設定は正しく設定されていますか?----(P.4-8、4-19、4-33)
- 光通信ユニット(HIF-51)とホストコンピュータは正しく接続されていますか?----- (P.1-5、6-5)
- RCT-200-01 とホストコンピュータは正しく接続されていますか?----(P.1-5)
- RCT-200-01 や光通信ユニット(HIF-51)の IrDA インターフェースは汚れていませんか?----(P.1-2)
IrDA インターフェースが汚れていると正しく IrDA 通信が行なわれないことがあります。乾いた柔らかい布でインターフェースを拭いてください。
- ホストコンピュータのリソースが不足していませんか?
通信ソフト以外のアプリケーションなどが起動している場合、コンピュータのリソースが不足することで、ファイルの送受信が上手く行なわれないことがあります。通信に必要なアプリケーションは、できるだけ終了してから再度通信を行なってください。

Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された

- 無線およびネットワークの通信設定は正しく行なわれていますか?----(P.4-8、4-19、4-33)
- コンピュータ上でFTPサーバは起動していますか?
- アクセスポイント(弊社推奨品)とコンピュータは LAN 回線上で正しく接続されていますか?----(P.1-5)
- FTP の設定は正しく行なわれていますか?----(P.4-28)

Q：端末の IP アドレス等の設定をコンピュータから一括設定したい

「ネットワーク管理ツール」の DHCP サーバ機能を使って端末の設定を自動化することができます。一般の DHCP サーバを使って TCP/IP の設定のみ行なうことができます。

Q：アプリケーションの起動やファイルの送受信ができない

バッテリーカートリッジの電圧が弱いときは、一部の機能が操作できなくなります。バッテリーカートリッジは充電されていますか?----(P.4-55、2-11)

Q：ファイルが壊れているようなのですが

ファイルを削除するか、ホストコンピュータ等に転送してデータを復旧するなどの措置をとってください。----(P.4-40、4-41)

Q：「アプリケーションエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

アプリケーションが不正な処理を行なった場合に表示します。このメッセージが表示された場合、何かキーを押すとアプリケーションは強制終了されます。電源が切れる場合もあります。メッセージの形式はエラーの種類やシステムプログラムのバージョンによって異なります。

システム管理者に相談してください。

Q：「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

システムプログラムがエラーの原因を特定できなかった場合に表示します。ハードウェア、システムプログラム、アプリケーション等の障害、強度の静電気のような外部要因、ユーザの操作ミスなどの原因が考えられます。システムエラーメッセージが表示された場合、何かキーを押すと電源が切れます。次の起動時に可能な限り自己復旧します。

再度電源を投入してください。----(P.4-5)

Q：IC タグが読み取れない**■アンテナまたは、IC タグが金属の影響を受けていませんか？**

金属からの距離を取ってください。

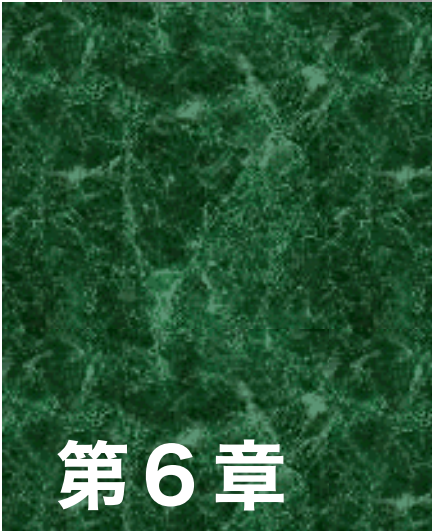
IC タグ側で金属の影響を避けられない場合は、専用 IC タグ（オノメタル）を使用して下さい。

意外なところに金属が含まれていることもございますので、

一度手に持ってお試し下さい。

■周囲に無線通信を妨害する電波やノイズはありませんか？**■IC タグとアンテナの距離や向きは適切ですか？**

読取り口からの距離が離れていたり、読取り口の面と垂直にあると読取りが上手くいかないことがあります。また、読取り性能は、周囲の金属やノイズ等の環境、IC タグの大きさや性能に左右されます。

A large rectangular area with a green, marbled or textured background, resembling stone or organic material. The texture is darker green with lighter green veins.

第6章

光通信ユニット（HIF-51）編

A horizontal bar with the same green, marbled texture as the background above it.

本章では、光通信ユニット（HIF-51）について説明します。
光通信ユニット（HIF-51）をご利用になる場合は、光通信ユニット（HIF-51）付属のマニュアルとあわせて、本章をお読みください。

6-1 はじめに

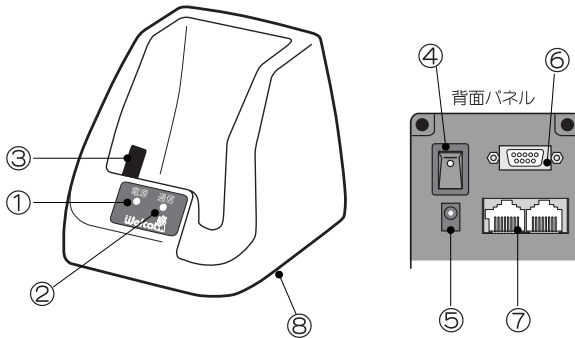
光通信ユニット(HIF-51)は、「Welfer-X」を使用した、ファイル転送専用の光通信ユニットです。RCT-200-01 の IrDA 通信機能を使用して、光通信ユニット経由で「Welfer-X」がインストールされたホストコンピュータとデータ通信を行なうことができます。

デジチェーン接続用ケーブル(STP-C001A)を使用することで、ホストコンピュータから、1つのファイルを複数の端末に一度に送信(同報送信)することが可能です。複数の光通信ユニットをデジチェーン接続している場合、光通信ユニットに接続した全ての端末から、ホストコンピュータへデータを送信できます。

■デジチェーン接続とは

デジチェーン接続とは、周辺機器を次から次へと鎖状につなげていく接続方法のことを指します。光通信ユニット(HIF-51)では、最大 16 台(接続全長 1200m)までデジチェーン接続が可能です。詳しくは、「6-3 デジチェーン接続」(P.6-6)をご覧ください。

6-1-1 各部の名称



① 電源 LED

電源が ON になると、緑色に点灯します。
通信中、または通信待機中に赤く点灯します。



電源 LED が緑色の状態で、ファイルの送受信を開始してください。（「■ 電源 LED について」(P.6-4) 参照）

② 通信 LED

RCT-200-01 からデータ送信中は、橙色に点灯します。
RCT-200-01 がデータ受信中は、緑色に点灯します。

③ 赤外線通信 (IrDA) インターフェース

RCT-200-01 と赤外線通信 (IrDA) を行ないます。
(IrDA SIR 1.2 Low Power Option 規格準拠)



赤外線通信 (IrDA) インターフェースが汚れていたり、異物がついていると誤作動の原因になります。

④ 電源スイッチ

⑤ AC 電源コネクタ

⑥ RS-232C コネクタ

ホストコンピュータと HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A:別売り) で接続します。

⑦ RS-485 コネクタ×2

他の光通信ユニット (HIF-51) とデジチェーン接続用ケーブル (STP-C001A:別売り) でデジチェーン接続します。デジチェーン接続はどちらのコネクタを使用しても構いません。

⑧ DIP スイッチ

光通信ユニット（HIF-51）の設定を行ないます。

（出荷時設定＝1～6 のスイッチは全て OFF）



光通信ユニット（HIF-51）底面にある DIP スイッチの 2 番から 6 番は、出荷時に設定されている値（OFF）から変更しないでください。むやみに変更すると、誤作動および故障原因となります。複数台をデジーチェーン接続する場合は、P.6-6 をご覧ください。

■電源 LED について

通信中に光通信ユニット（HIF-51）から RCT-200-01 を取り外すと、しばらくの間電源 LED が赤く点灯したままになることがあります。この時点では、まだ光通信ユニット（HIF-51）とホストコンピュータとの間で通信処理が行なわれています。通信処理が完了して電源 LED が緑色になってから、次のファイルの送受信を開始してください。

電源 LED が赤く点灯している状態では、次のファイルの送受信を正しく行なうことはできません。

6-2 接続

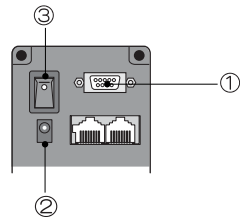
6-2-1 ホストコンピュータとの接続



ホストコンピュータとの接続の際は、HIF-51 PC 接続用ケーブル（WRS-AXC003A）をご用意ください。



- ① ホストコンピュータに HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) で接続します。
- ② AC アダプタを接続します。
- ③ 光通信ユニット背面の電源スイッチを ON にします。



RCT-200-01 のデータ送受信の準備が整ったら、光通信ユニット (HIF-51) に置きデータの送受信を行ないます。(P.4-36、4-38)



データの送受信の準備が整った RCT-200-01 は、電源 LED が緑の状態の光通信ユニット (HIF-51) に置いてください。電源 LED が赤の状態で置くと送受信は失敗します。

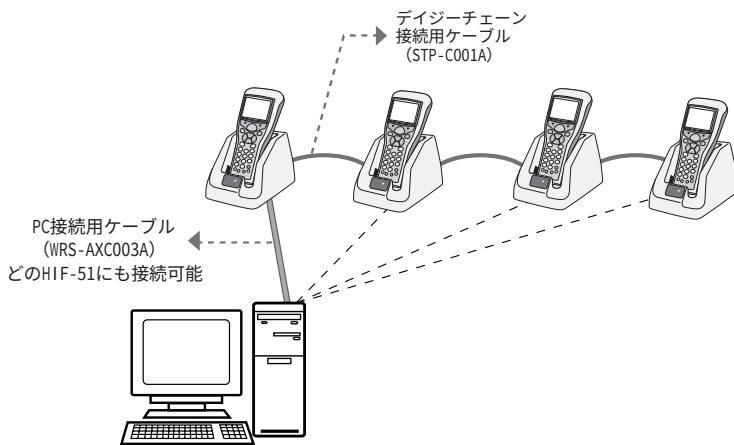
RCT-200-01 を、光通信ユニット (HIF-51) に置いたまま操作しないでください。光通信ユニットが倒れたり、光通信ユニットから RCT-200-01 が落下したり、故障の原因となります。

光通信ユニットは、コンピュータや蛍光灯などのノイズを発する機器から、なるべく離してご使用ください。
ノイズの影響により、正しく通信できなくなる場合があります。

6-3 デイジーチェーン接続

光通信ユニット（HIF-51）では他の光通信ユニット（HIF-51）と、デイジーチェーン接続用ケーブル（STP-C001A）で最大 16 台までデイジーチェーン接続することが可能です。

デイジーチェーン接続では、ホストコンピュータから、1 つのファイルを複数の端末に一度に送信（同報送信）することが可能です。また、デイジーチェーン接続されている複数の光通信ユニットでは、どのユニットからもホストコンピュータへデータを送信することが可能です。



光通信ユニットでデータ通信中は、他の光通信ユニットで電源スイッチの操作（電源の ON/OFF）をしないでください。
データ通信が上手くいなくなる場合があります。

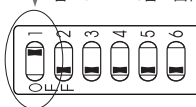
●DIP スwitch の設定

デイジーチェーン接続をする場合、光通信ユニット（HIF-51）底面にある「DIP スwitch」の設定が必要です。
接続の両端にある光通信ユニットの「DIP スwitch」の 1 番を ON にします。2～6 番は変更しないでください。
「DIP スwitch」の設定詳細は、「6-3-1 構成例（DIP スwitch の設定）」（P.6-7）をご覧ください。

DIP スwitch 出荷時設定



▼ 1番→ON 2～6番→出荷時設定のまま

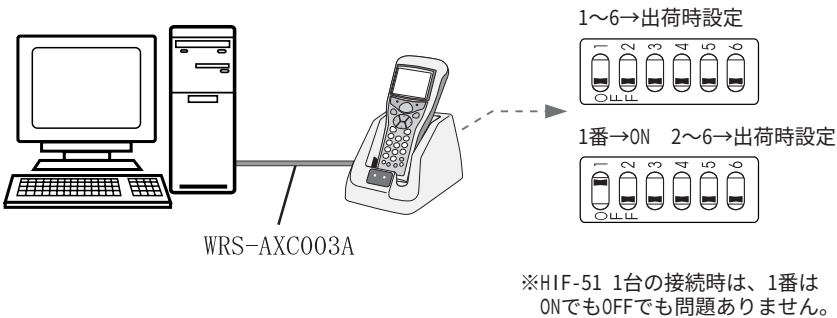


●通信時のポイント

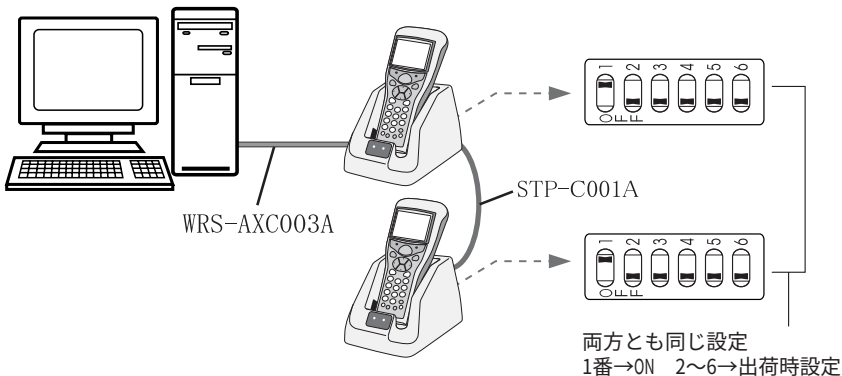
デイジーチェーン接続されている他の光通信ユニットがホストコンピュータと通信中のときに、別の光通信ユニットを使用して通信開始すると、RCT-200-01 に「回線が使用中です」と表示され、RCT-200-01 と光通信ユニットは通信待機状態になります。回線が使用可能になると、通信を開始します。通信待機状態をキャンセルするには、**㊟** キーを押します。

6-3-1 構成例（DIP スイッチの設定）

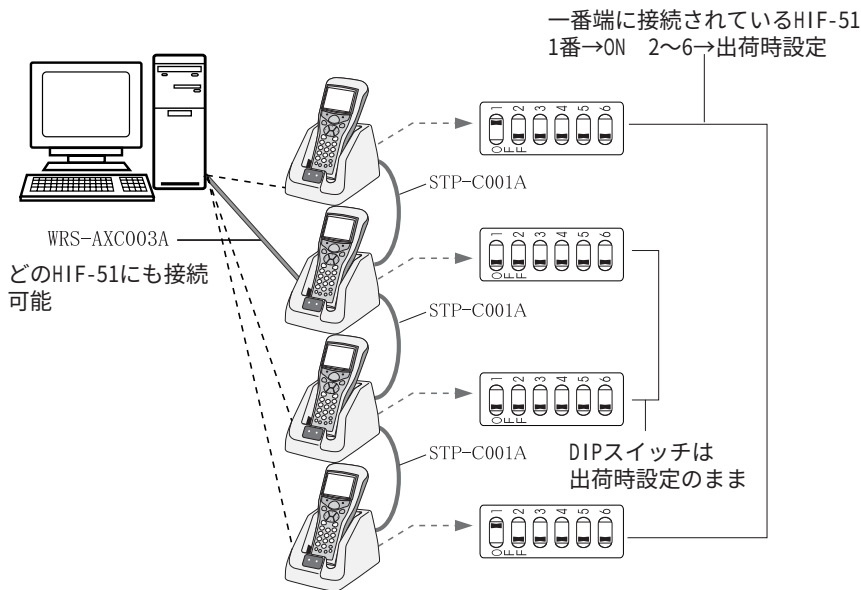
■光通信ユニット（HIF-51）が 1 台



■光通信ユニット（HIF-51）が 2 台



■光通信ユニット（HIF-51）が 3 台以上



■DIP スイッチ仕様

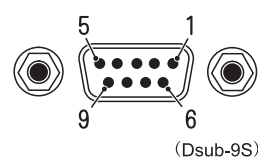
項目	説明
1	ON: 終端抵抗あり、OFF: 終端抵抗無し
2	変更禁止
3	
4	
5	
6	



光通信ユニット（HIF-51）底面にある DIP スイッチは、むやみに変更すると、誤作動および故障原因となります。

6-4 インターフェース

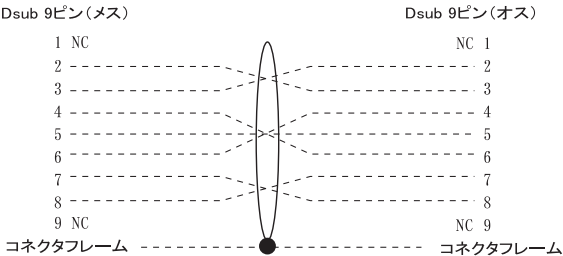
6-4-1 RS-232C インターフェース



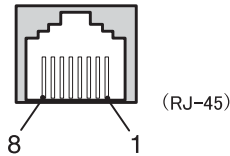
端子の信号レベルは、JISX5101 相当、ピン配列は DTE 仕様

ピン番号	端子名	方向	説明
1	NC	-	使用禁止
2	RxD	入力	受信データ
3	TxD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	シグナルグランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	NC	-	使用禁止

●光通信ユニット(HIF-51)PC 接続用ケーブル(WRS-AXC003A)結線図



6-4-2 RS-485 インターフェース



ピン番号	説明
1	使用禁止
2	使用禁止
3	使用禁止
4	信号線(+)
5	信号線(-)
6	HIF-51 接続検出線
7	HIF-51 接続検出線
8	GND



デジチェーン接続を行なう際は、必ずデジチェーン接続用ケーブル（STP-C001A）をご使用ください。市販されているイーサネット用ケーブル使用すると、故障の原因となります。

6-4-3 インターフェース仕様

RS-232C	通信方式		全 2 重方式
	同期方式		調歩同期方式
	通信条件	ボーレート	2400～115200bps
		データビット長	7ビット／8ビット
		パリティ	偶数、奇数、なし
		ストップビット長	1ビット／2ビット
		フロー制御	RTS/CTS 制御
	コネクタ		HDEB-9S ヒロセ電機製 D-sub9S
	かん合固定台		RDG-LNA-W1 ヒロセ電機製
雌ネジ		M2.6	

RS-485 マルチドロップ	通信方式		半2重方式
	同期方式		調歩同期方式
	通信条件	ボーレート	2400～115200bps
		データビット長	7ビット／8ビット
		パリティ	偶数、奇数、なし
		ストップビット長	1ビット／2ビット
	コネクタ		HEC0470-01-230 ホシデン製 RJ-45

赤外線通信部 (IrDA)	IrDA 規格		IrDA SIR 1.2 Low Power Option 規格準拠
	通信方式		半2重方式
	伝送速度		2400～115200bps
	同期方式		調歩同期方式
	通信条件	ボーレート	2400～115200bps
		データビット長	7ビット／8ビット
		パリティ	偶数、奇数、なし
		ストップビット長	1ビット／2ビット



通信条件は、RCT-200-01 の設定に従います。

第7章

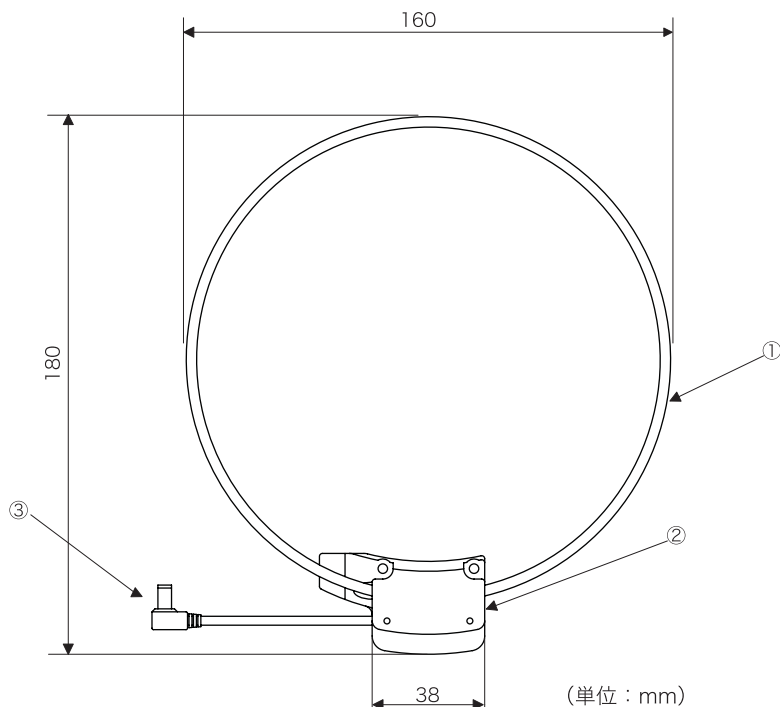
外付けアンテナユニット

(ANU-200-01) 編

7-1 はじめに

外付けアンテナユニット(ANU-200-01)は、RCT-200-01 専用の IC タグアクセスアンテナです。

7-1-1 各部の名称と外形寸法



■各部の名称

① アンテナコイル

電波を放射してICタグとの通信を行います。使用中は握ったり体に近づけることは、おやめください。

② ケース

RCT-200-01 底面に付属のネジで取り付けます。

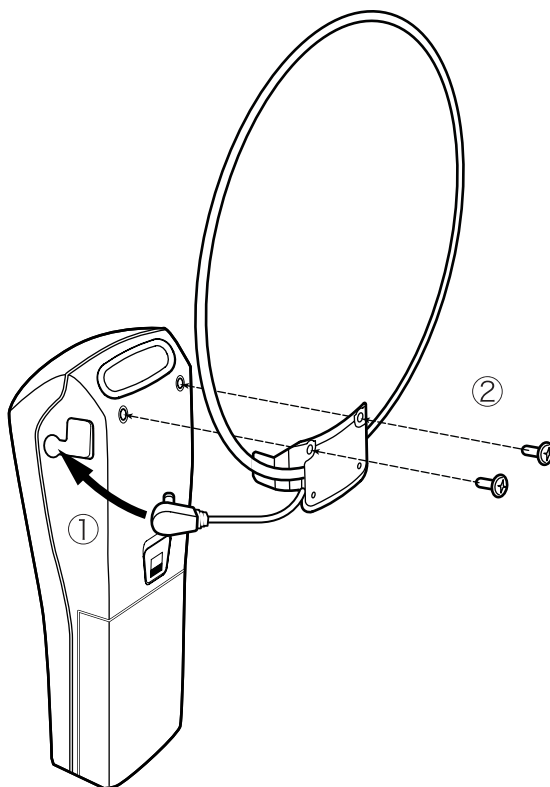
③ 同軸コネクタ

RCT-200-01 側面のコネクタジャックに差し込みます。先にこのコネクタを接続してからケースにネジ止めしてください。

7-2 取り付け方法

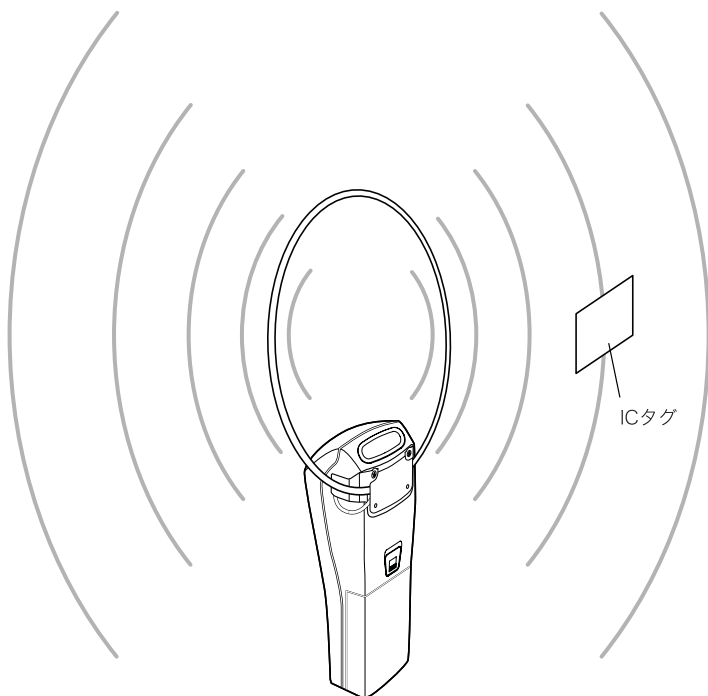
次の手順で RCT-200-01 にアンテナを取り付けてください。

- ① 同軸コネクタを外付けアンテナ接続端子に接続します。
- ② 付属のネジでアンテナを固定します。



7-3 ICカード/ICタグの読ませ方

IC カード、IC タグの読み取り、書き込みを行う際は、下図のようにタグ面に対してアンテナ面を平行になるようにかざします。



7-4 仕様

■一般仕様

項目		仕様	条件、備考
外形寸法		160(W)×180(L)×20(H)[mm]	突起、ケーブル含まず。
重量		15g	ケーブル含む。
温度	使用時	-5～45℃	
	保存時	-10～60℃	急激な温度変化、結露無きこと。
湿度	使用時	20～80%RH	結露無きこと。
	保存時	10～90%RH	急激な温度変化、結露無きこと。

■電気特性

項目		仕様	条件、備考
中心周波数		13.56MHz	周囲に金属が無いこと。
入力インピーダンス		50Ω	13.56MHz
最大入力電力		500mW	

付録 A

システムメニュー出荷時設定

システムメニュー出荷時設定値一覧

設定項目	メニュー階層	設定可能範囲	出荷時設定値
自動実行プログラム	1:システム→1:自動実行	システムメニュー 任意のアプリケーション	1:システムメニュー
シリアル通信 ボーレート	1:システム→2:シリアル通信 →1:ボーレート	2400 ・ 9600 ・ 19200 ・ 38400・57600・115200bps	6:115200bps
シリアル通信 データ長	1:システム→2:シリアル通信 →2:データ長	7ビット 8ビット	2:8ビット
シリアル通信 ストップビット	1:システム→2:シリアル通信 →3:ストップビット長	1ビット 2ビット	1:1ビット
シリアル通信 パリティ	1:システム→2:シリアル通信 →4:パリティ	奇数 偶数 なし	3:パリティなし
シリアル通信ポート	1:システム→2:シリアル通信 →5:ポート	IrDA RS232C	1:IrDA
LCD コントラスト	1:システム→4:コントラスト	レベル 1～8	レベル 4
ブザー 音量	1:システム→5:ブザー →1:ブザー音量	レベル 1～8	レベル 8
ブザーデバイス	1:システム→5:ブザー →1:デバイス選択	ブザー パイプ 両方	1:ブザー
スキャナ トリガモード	1:システム→6:スキャナ →1:トリガモード	ノーマル デコードトリガ リリーストリガ	1:ノーマルトリガ
スキャナ トリガモード レーザー照射時間	1:システム→6:スキャナ →1:トリガモード →1:ノーマルトリガ 2:デコードトリガ 3:リリーストリガ	0～65536 秒	20 秒
スキャナ パワーセーブ	1:システム→6:スキャナ →2:パワーセーブ	セーブしない クイックセーブ フルセーブ	2:クイックセーブ
スキャナ デコードレベル	1:システム→6:スキャナ →3:デコードレベル	1:緩い 2:通常 3:厳しい	2:通常
レジューム	1:システム→7:レジューム	ON OFF	OFF
RFID トリガモード	1:システム→8:RFID →1:トリガモード	ノーマルトリガ オートトリガ セミオートトリガ	1:ノーマルトリガ
RFID トリガモード 読取りタイムアウト	1:システム→8:RFID →1:トリガモード →1:ノーマルトリガ	0～65536	20 秒

設定項目	メニュー階層	設定可能範囲	出荷時設定値
RFID パワーセーブ	1:システム→8:RFID →2:パワーセーブ	1:セーブしない 2:フルセーブ	1:セーブしない
RFID 無線出力	1:システム→8:RFID →3:無線出力	低出力 中出力 高出力	中出力
SSID	2:ネットワーク→1:無線 →1:動作設定 →1:SSID	半角英数最大 32 文字	80011
無線ローミング レベル	2:ネットワーク→1:無線 →1:動作設定 →2:ローミングレベル	Fast Normal Slow	2:Normal
無線省電力 タイムアウト	2:ネットワーク→1:無線 →1:動作設定 →3:省電力タイムアウト	すぐ、1 秒、なし	2: 1 秒
送信速度	2:ネットワーク→1:無線 →1:動作設定 →4:送信速度	Auto、1Mbps、2Mbps、1or 2Mbps、5.5Mbps、11Mbps	1:Auto
WEP	2:ネットワーク→1:無線 →2:セキュリティ →1:WEP →1:WEP	無効、40bit、128bit	無効
WEP TxKEY_ID	2:ネットワーク→1:無線 →2:セキュリティ →1:WEP →2:WEP TxKEY_ID	KEY1、KEY2、KEY3、KEY4	1:KEY1
WEP KEY 設定	2:ネットワーク→1:無線 →2:セキュリティ →1:WEP →3:WEP KEY 設定	KEY 1～4 それぞれに「0」～ 「9」、「A」～「F」、または「a」 ～「f」の文字列 WEP 40bit の場合 10 文字 固定、WEP 128bit の場合 26 文字固定	
認証	2:ネットワーク→1:無線 →2:セキュリティ →2:認証	OPEN、SHARED	OPEN
Preamble	2:ネットワーク→1:無線 →3:詳細設定 →1:Preamble	LONG、SHORT	LONG
RTS_Threshold	2:ネットワーク→1:無線 →3:詳細設定 →2:RTS_Threshold	0～3000 の偶数	2432 (バイト)
IP アドレス	2:ネットワーク→2:TCP/IP →1:IP アドレス	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000
サブネットマスク	2:ネットワーク→2:TCP/IP →2:サブネットマスク	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000
ゲートウェイ	2:ネットワーク→2:TCP/IP →3:ゲートウェイ	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000

付録 A システムメニュー出荷時設定

設定項目	メニュー階層	設定可能範囲	出荷時設定値
DHCP クライアント	2:ネットワーク→3:DHCP	使わない 毎起動時に実行 今すぐ実行	1:使わない
FTP ホストアドレス	2:ネットワーク→4:FTP →1:ホストアドレス	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000
FTP ログイン名	2:ネットワーク→4:FTP →2:ログイン名	18 文字までの英数字	設定なし
FTP パスワード	2:ネットワーク→4:FTP →3:パスワード	20 文字までの英数字	設定なし
プライマリ DNS サーバ	2:ネットワーク→5:DNS →1:プライマリ	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000
セカンダリ DNS サーバ	2:ネットワーク→5:DNS →2:セカンダリ	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000
SNMP コミュニティ (R/Only) コミュニティ名	2:ネットワーク→6:SNMP →1:コミュニティ(R/Only) →1:コミュニティ名		public
SNMP コミュニティ (R/Only) マネージャ IP アドレス	2:ネットワーク→6:SNMP →1:コミュニティ(R/Only) →2:マネージャ IP アドレス		000.000.000.000
SNMP コミュニティ (R/W) コミュニティ名	2:ネットワーク→6:SNMP →2:コミュニティ(R/W) →1:コミュニティ名		private
SNMP コミュニティ (R/W) マネージャ IP アドレス	2:ネットワーク→6:SNMP →2:コミュニティ(R/W) →2:マネージャ IP アドレス		000.000.000.000
SNMP Trap コミュニティ名	2:ネットワーク→6:SNMP →3:Trap →2:コミュニティ名		CTR800
SNMP Trap マネージャ IP アドレス	2:ネットワーク→6:SNMP →3:Trap →2:マネージャ IP アドレス		000.000.000.000
SNMP Trap 不正アクセス Trap	2:ネットワーク→6:SNMP →3:Trap →3:不正アクセス Trap		2:送信しない
ping ホストアドレス	6:テスト→1:RF 通信 →1:条件設定 →1:ホストアドレス	IP アドレス形式の 任意値	000.000.000.000
ping パケットサイズ	6:テスト→1:RF 通信 →1:条件設定 →2:パケットサイズ	32・64・128・256・512・ 1024・1500 バイト	1:32 バイト
ping タイムアウト時間	6:テスト→1:RF 通信 →1:条件設定 →3:タイムアウト時間	1～255 秒	1 秒
ping 試行回数	6:テスト→1:RF 通信 →1:条件設定 →4:試行回数	0～255 回	4 回

付録 B

サンプルバーコード

サンプルバーコード

■ JAN13



■ JAN8



■ UPC-E



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■CODE39 (C/D あり)



■CODE39 (C/D なし)



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

付録 B サンプルバーコード

■NW-7 (C/D あり)



■NW-7 (C/D なし)



■NW-7 (HEX)



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■ITF (C/D あり)



■ITF (C/D なし)



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■ITF（標準バージョン ITF-14）



■ITF（拡張バージョン ITF-16）



■ITF（アドオンバージョン ITF-6）



（注）印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■CODE128 (コードセット A)



■CODE128 (コードセット B)



■CODE128 (コードセット C)



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■EAN128（コードセット A）



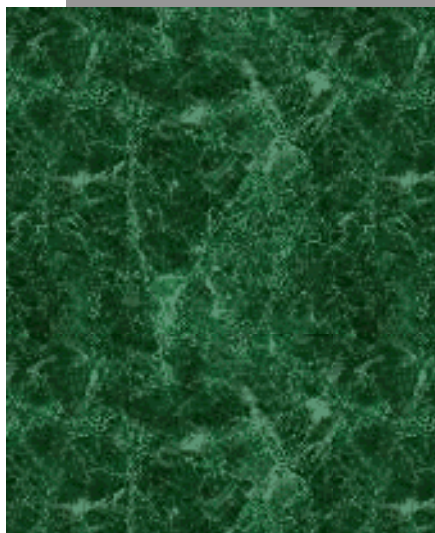
■EAN128（コードセット B）



■EAN128（コードセット C）



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。



索引



A

AP 検索4-50

B

BS キー 1-3

C

CODE128(サンプルバーコード)付録 B-7

CODE39(サンプルバーコード)付録 B-3

C キー 1-3

D

DHCP付録 A-4

DHCP クライアント付録 A-4

DHCP クライアント機能 1-9, 1-10, 4-26

DHCP サーバ 1-6

DHCP の設定 1-9, 4-26

DHCP ポート設定4-26

DHCP リクエスト4-5

DHCP 設定4-27

DIP スイッチ6-7

DNS4-28

DNS の設定 1-9, 4-28

E

EAN128(サンプルバーコード)付録 B-8

ENT キー 1-3

ESSID4-21

FTP付録 A-4

F

FROM 2-4

FTP クライアント機能4-28

FTP サーバ 1-6

FTP の設定 1-9, 4-28

H

HBC-512-11

HIF-51 1-5, 6-2

HOP-C031 1-5

HQC-51/HQC-542-11

I

IC タグアクセス仕様2-10

IEEE802.11b 1-8

IP アドレス4-25, 付録 A-3

IrDA インターフェース 1-3

IrDA 通信 1-5, 4-8

ITF(サンプルバーコード) ...付録 B-5, 付録B-6

J

JAN13(サンプルバーコード)付録 B-2

JAN8(サンプルバーコード)付録 B-2

K

KEY 設定4-22

L

LCD 表示部2-4

M

MAC アドレス4-32

Mini-Welfer for Windows4-58

MRD2-4

N

NW-7(サンプルバーコード)付録 B-4

O

Open 認証4-23

OS バージョン4-46

P

PC 接続用ケーブル 1-5

ping付録 A-4

ping コマンド4-48

ping テスト1-10

ping 実行4-49

Preamble4-24, 付録 A-3

PW キー 1-3

R

RCT-200-01 専用ライブラリ 1-6

RCT-200-01 で使用できるファイル名.....	3-3
RCT-200-01 の主な機能.....	2-2
RCT-200-01 のソフトウェア.....	3-2
RFID トリガモード.....	付録 A-2
RFID の設定.....	4-17
RFID パワーセーブ.....	付録 A-3
RFID 無線出力.....	付録 A-3
RF 通信.....	4-47, 4-48
RS232C.....	1-5
RS-232C インターフェース.....	1-3, 2-6
RTS_Threshold.....	4-24, 付録 A-3

S

SF キー.....	1-3
Shared Key 認証.....	4-23
SNMP.....	4-29, 4-31, 付録 A-4
SRAM.....	2-4
SSID.....	4-21, 付録 A-3
SSID の設定.....	1-9, 4-20
STP-C001A.....	6-6

T

TCP/IP.....	2-2
TCP/IP の設定.....	1-9
TCP/IP 通信.....	1-8, 4-25
Trap の設定.....	4-30
TxKEY_ID.....	4-22

U

UPC-E (サンプルバーコード).....	付録 B-2
------------------------	--------

W

WebGlider II.....	1-6
Welfer-X.....	1-6, 1-10
WEP.....	4-22, 4-23, 付録 A-3
WEP KEY 設定.....	付録 A-3
WEP TxKEY_ID.....	付録 A-3
WRS-AXC003A.....	1-5

あ

アクセスポイント.....	1-5, 1-8
アクセスポイントの検索.....	4-49
アクセスポイントの役割.....	1-8
アプリケーション開発キット.....	1-6
アプリケーションの起動.....	4-34
アプリケーションプログラム.....	3-2

アンテナ.....	2-5
アンテナコイル.....	7-2

え

Enter キー.....	1-3
---------------	-----

お

オートパワーオフ.....	4-55
音量.....	4-11

か

外部インターフェース.....	2-5
拡張子.....	3-3
拡張文字.....	2-18
確認.....	4-45
稼動モニタ.....	1-6
画面出力キャラクタ.....	2-18
画面表示のテスト.....	4-52
環境.....	2-4

き

キー入力のテスト.....	4-53
揮発性メモリ.....	3-3
キャンセルキー.....	1-3

く

クイックセーブ.....	4-14
空中線電力.....	2-5

け

警告 LED.....	1-3, 2-5
ケース (外付けアンテナユニット).....	7-2
ゲートウェイ.....	4-25, 付録 A-3

こ

光源.....	2-4
コミュニティ.....	4-29
コミュニティ名.....	4-29, 4-30
コントラスト.....	4-10, 付録 A-2
コントラスト調整.....	2-4

さ

サブネットマスク.....	4-25, 付録 A-3
サンプルバーコード.....	付録 B-2

し

試行回数	4-48, 付録 A-4
システムプログラム	3-2
システムメニュー	3-2, 3-4, 4-2, 4-3, 4-6
システムメニューの画面の表示	4-4
システムメニューの起動	4-5
システムメニューの初期化	4-56
自動実行	4-7
自動実行プログラム	付録 A-2
自動的に起動するプログラムの設定	4-7
シフトキー	1-3
充電	2-11
充電時間	2-11
重量	2-4
使用温度	2-4
条件設定	4-47
使用湿度	2-4
照射角度	2-6
省電力タイムアウト	4-20
小電力データ通信システムの無線局規格準拠	2-2
照度条件	2-4
初期化	4-56
シリアル通信の設定	4-8
シリアル通信のテスト	4-51
シリアル番号	1-3

す

スキャナ	4-13
スキャナトリガモード	付録 A-2
スキャナパワーセーブ	付録 A-2
スキャン範囲	2-7
スキュー	2-8
ストップビット	4-58, 付録 A-2
ストップビット長	4-8
すべての初期化	4-57
寸法	2-4

せ

セーブしない	4-14
セカンダリDNS サーバ	付録 A-4
赤色光半導体レーザー	2-4
セキュリティ	2-5
セキュリティの設定	1-9, 4-21
接続	1-5
接続手順(無線通信)	1-11

接続手順(有線通信)	1-12
全角文字	2-18
専用充電器	2-11

そ

送信速度	4-20, 付録 A-3
外付けアンテナユニット	7-2
外付けアンテナユニット端子	1-3

た

対応タブ	2-4
タイムアウト	4-20, 4-47, 5-6, 付録 A-3
タイムアウト時間	4-47, 付録 A-4
大容量バッテリー	2-3
耐落下強度	2-4
端末 ID	4-33

ち

チャンネル数	2-5
--------------	-----

つ

通信可能距離	2-5
通信距離	2-4
通信設定	4-59
通信速度	2-5, 4-58
通信方式	2-5
通信ポート	4-58

て

デジizerチェーン	6-6
停止状態	4-5
低電圧警告	4-55
データ長	4-8, 付録 A-2
データの格納場所	3-3
データビット	4-58
適合国際規格	2-5
適合国内規格	2-5
デコードトリガ	4-13
デコードレベル	4-15, 付録 A-2
デッドゾーン	2-8
デバイス	4-12, 付録 A-2
デバイス選択	4-12
テンキー	1-3
電極の清掃	2-13
電源	2-4
電源スイッチ	1-3

電池電圧4-45

と

同軸コネクタ7-2
 時計(設定)4-9
 時計(表示)4-46
 時計機能2-5
 ドライブ4-43
 ドライブ F2-16, 3-3, 4-4
 ドライブ S2-16, 3-3, 4-4
 ドライブ情報4-43
 ドライブの構成3-3
 トリガモード(RFID)付録 A-2

に

認証4-22, 4-23, 付録 A-3
 Open 認証4-23
 Shared Key 認証4-23

の

ノーマルトリガ4-13

は

バーコード(サンプル)付録 B-2
 バーコードの傾き2-8
 バーコードの読取りテスト4-52
 バイプレータ2-4, 4-11
 パケットサイズ4-47, 付録 A-4
 パスワード4-28, 付録 A-4
 バックアップバッテリー2-4
 バックアップ用電池2-14
 バックアップ用電池の充電2-15
 バックスペースキー1-3
 バックライト2-4, 4-3
 バッテリー
 充電時間2-14
 使用可能期間2-14
 使用上の注意2-14
 バッテリーカートリッジ1-3, 2-11, 2-14
 交換2-13
 充電2-11
 消耗2-13
 長期間の保管2-13
 電極の清掃2-13
 取り付け方2-12
 取り外し方2-12

バッテリーカートリッジロックレバー1-3
 バッテリーカバー1-3
 バリディ4-8, 4-58, 付録 A-2
 パワーセーブ4-14
 パワーセーブモード4-14
 半角文字2-19
 ハンディターミナル・ネットワークシステム1-7
 ハンドストラップ1-3

ひ

光通信ユニット1-5, 6-2
 ピッチ2-9
 表示 LED2-4
 表示数2-4
 表示面積2-4
 表示文字2-4

ふ

ファイル情報4-42
 ファイルの再配置4-34
 ファイルの削除4-40
 ファイルの受信(シリアル通信)4-38
 ファイルの受信(無線通信)4-37
 ファイルの送信(シリアル通信)4-36
 ファイルの送信(無線通信)4-35
 ファイルのテスト4-41
 ファイル名3-3
 ファイル名について3-3
 ファンクションキー1-3
 フォント4-44
 不揮発性メモリ3-3
 ブザー2-4, 4-11, 付録 A-2
 不正アクセス Trap4-31
 プライマリDNS サーバ付録 A-4
 ブラウザ1-6
 フルセーブ4-14
 フロー制御4-58
 分解能2-4
 分解能深度2-7

ほ

防滴2-4
 ポート4-8, 付録 A-2
 ポーレート4-8, 付録 A-2
 ホストアドレス4-28, 4-47, 付録 A-4
 ホストコンピュータ6-6

索引

保存温度	2-4
保存湿度	2-4

ま

マネージャ IP アドレス	4-29, 4-30
---------------------	------------

む

無線規格	2-4
無線周波数	2-4, 2-5
無線通信	1-9
無線通信の設定	4-19
詳細設定	4-24
セキュリティ設定	4-21
動作設定	4-19
無線通信の方式	1-8
無線テスト	4-48
無線伝送方式に	1-7
無線のテスト	4-47
無線ローミングレベル	付録 A-3

め

メインバッテリー	2-4
メモリ	2-4
メモリバックアップ期間	2-14

ゆ

ユーザ名	4-28
------------	------

よ

読取 LED	1-3
読取可能角度	2-8
読取キー	1-3
読取距離範囲	2-7
読取口	1-2
読取桁数	2-4
読取コード	2-4
読取仕様	2-6
読取深度	2-7
読取リタイムアウト	付録 A-2
読取幅	2-4
読取り方向	2-4

り

リリストロガ	4-13
--------------	------

れ

レーザー照射時間	4-13, 付録 A-2
レジューム	付録 A-2
レジューム機能	2-17, 4-16
連続使用時間	2-5

ろ

ローバッテリー	4-55
ローミングレベル	4-20
ロール	2-9
ログイン名	付録 A-4
ロックレバー	2-12

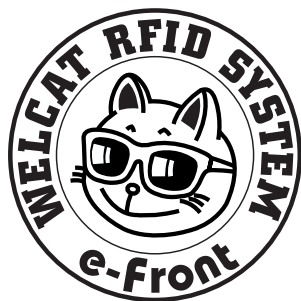
SS 無線搭載 IC タグハンディリーダーライタ
RCT-200-01
ハードウェア／システムメニュー
ユーザーズマニュアル

2005 年 4 月 第 5 版発行
Copyright©2004 Welcat Inc.

株式
会社 **ウェルキャット**

<http://www.welcat.co.jp/rfid/>
info-rfid@welcat.co.jp

M05RCT200sys



株式会社 **ウェルキャット**